

こころの健康に関する アンケート調査

調査結果

令和4年3月
相模原市



調査目的

相模原市自殺総合対策推進にあたり、相模原市民の自殺の背景となりうる悩みやストレス、自殺に関する意識等を把握し、行動計画の評価及び次期行動計画の策定に資することを目的とする。

調査設計

(1) 調査地域	相模原市全域
(2) 調査対象	相模原市在住の20歳以上の男女個人
(3) 標本数	3,000人
(4) 抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
(5) 調査方法	郵送調査（郵送配布－郵送回収、はがきによる督促1回）
(6) 調査期間	令和3年11月29日～12月21日
(7) 有効回収数（率）	1,336票（44.5%）

調査結果概要

悩みやストレスについて

○不安や悩みを受け止めてくれる人

- ・不安や悩みを受け止めてくれる人については87.2%の人が「いる」と回答した。
- ・過去の調査と比較しても大きな変化は見られない。
- ・不安や悩みを受け止めてくれる人は「同居の家族」が75.0%と最も高く、次いで「友人」が50.5%、「同居していない家族・親族」が38.5%と続く。

○この1か月間での悩みやストレス等

- ・この1か月間に、日常生活での悩みやストレス等があったと感じる人は65.7%おり、女性の30代でその割合が高い。
- ・悩みやストレス等の原因は、全体として「家庭問題」「健康問題」「勤務問題」の割合が高い。性別でみると、男性は「勤務問題」の割合が、女性は「家庭問題」の割合が高い。
- ・悩みやストレスの解消法は「テレビ・映画鑑賞、ラジオ」「買い物」「体を動かす」の割合が高い。

○コロナ禍の影響

- ・コロナ禍を原因としたストレスを感じている人は64.3%おり、女性の方がその割合は高い。
- ・「感染への心配」や「先々の生活が見通せないこと」「自粛や感染対策を徹底しない人への不満」がストレスの大きな要因となっている。

調査結果概要

相談することについて

○悩みやストレスの相談意向

- ・悩みやストレスを感じた時、64.7%の人が相談したいと思っている。その一方で、26.6%の人が相談したいとは思っていない。
- ・相談をしたいと思わない人の理由は「自分で解決するため必要ない」が60.7%と特に高い。
- ・相談の機会については、「家族や友人等関係性が出来ている人への相談」が42.8%と最も高く、次いで、「公共機関の専門家により相談」「無料相談」と続く。
- ・年代別にみると、20代では「SNSやメールなどインターネット上の相談」の割合が高い。

○かかりつけの医療機関

- ・かかりつけの医療機関の有無は「内科」が52.0%と最も高いが、「かかりつけ医療機関はない」人が20.7%いる。
- ・20代、30代では「かかりつけ医療機関がない」人の割合が高い。
- ・大きな精神ストレスを抱えた時、かかりつけ医療機関に「相談しない」人が55.9%おり、「相談する」人を上回っている。

○困っている人への対応

- ・困っている人を見かけた時、73.4%の人が「声をかけよう」と思っている。
- ・「声をかけようと思わない」人の理由は「トラブルに巻き込まれるのが嫌だから」が46.9%と最も高く、次いで「どのように声をかけてよいかわからない」「勇気がない」と続く。

○相談場所の調べ方

- ・相談場所の調べ方は「インターネット等で調べる」が67.6%ともっと高く、若い世代ではその傾向が強い。
- ・一方、70代以上では「友人・知人に聞く」「市役所に問い合わせる」の傾向が強い。

調査結果概要

自殺に関する考えについて①

○自殺者数等の認知度

- ・我が国の自殺者数については、55.6%の人が「知っている」と回答する一方で、自殺予防週間や自殺対策強化月間については認知度が低い。

○自殺に関する認識

- ・自殺に関する認識については、82.2%の人が「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追いつめられ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」と思っている。一方で、「家族を道連れに自殺をするのは仕方がない」は86.2%の人が「そう思わない」と回答した。

○自殺をしたいと考えた経験

- ・これまでに「自殺をしたいと考えたことがない」人は69.8%であり、過去の調査（平成24年度75.1%、平成29年度77.1%）と比較すると、大きく減少している。
- ・一方、「自殺を考えたことがある人」は23.7%で、特に「この1年以内の間に自殺をしたいと考えたことがある」人は3.7%もあり、過去の調査と比較すると倍増となっている。
- ・自殺を考えた理由は「家庭問題」が45.9%と最も高く、次いで「健康問題」「勤務問題」と続く。その理由を性別でみると、男性は「勤務問題」、女性は「家庭問題」が最も高く、性別で理由に若干の違いがある。
- ・自殺を考えた時に他者に「相談しなかった」人は71.4%で、「相談した」人を大きく上回っている。
- ・相談しなかった理由は「他人に相談するようなことではないから」が39.2%と最も高く、次いで「周りに心配をかけたくないから」「相談する余裕がなかったから」が続く。

調査結果概要

自殺に関する考えについて②

○身近な人から「死にたい」と打ち明けられた時の対応

- ・「耳を傾けてじっくりと話を聴く」の割合が74.6%と最も高く、次いで「相談機関に相談するよう勧める、同行する」が43.7%、「医療機関にかかるよう勧める、同行する」が29.9%となっている。

○周りで自殺で亡くなった方の有無

- ・58.5%の人が「いない」と回答した。一方、いる人は、「友人・知人」の割合が14.2%と最も高く、次いで「同居していない家族・親族」が12.6%、「職場関係の人」が7.3%となっている。

○遺族の方についてどのように思うか

- ・「思いつめないで欲しい（自分を責めないで欲しい）」の割合が53.4%と最も高く、次いで「どのように声をかけてよいかわからない」が43.5%、「力になれるものなら、相談にのってあげたい」が26.8%と続く。

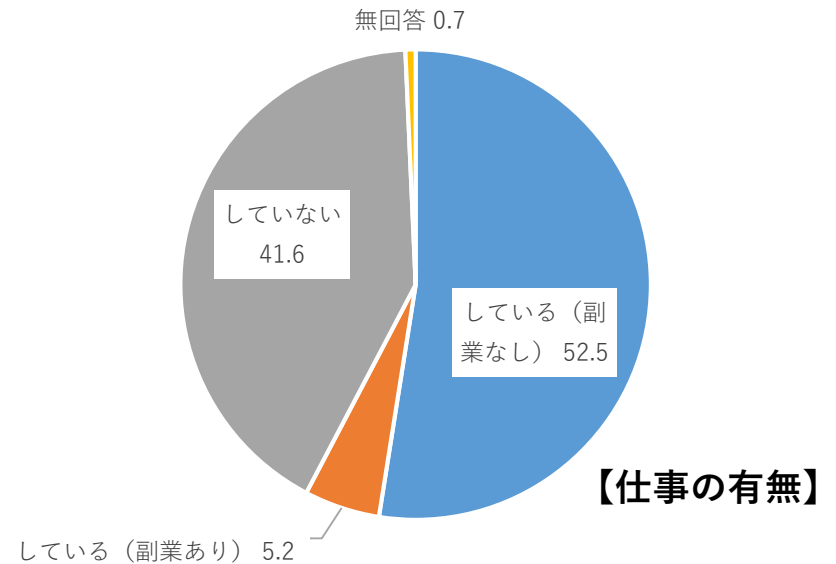
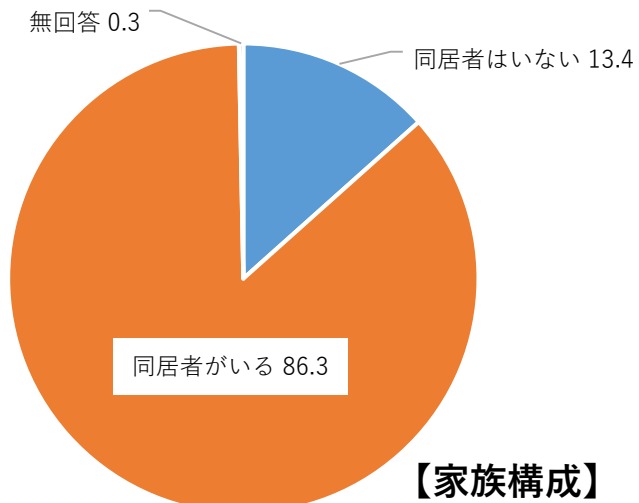
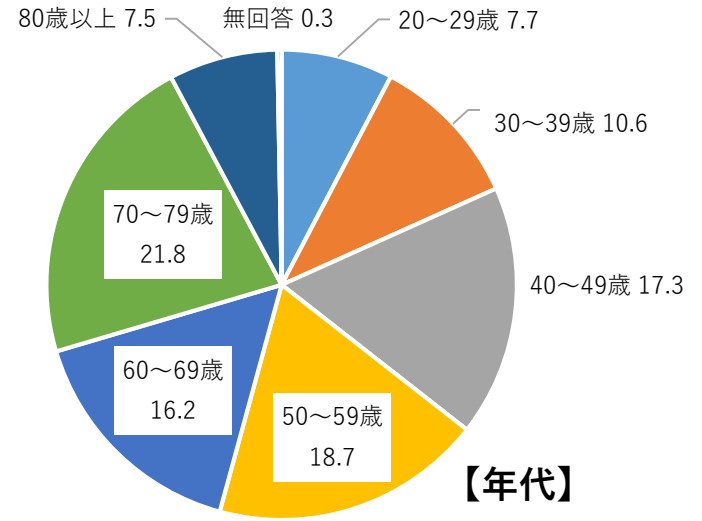
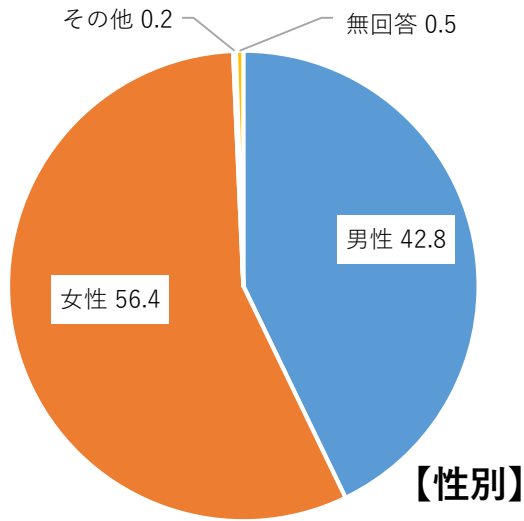
○市の自殺対策事業の認知度

- ・市が実施している自殺対策事業の認知度は、「電話相談」16.2%が最も高く、次いで「広報さがみはらの特集記事」が13.1%、「バス車内のポスター、啓発活動」が7.9%と続く。

○自殺減少のために重要なこと

- ・自殺減少のために重要なことは「学校での「いのち教育」の充実」が33.2%と最も高く、次いで「勤労に関する支援」「さまざまな人にとって利用しやすい窓口の整備」と続く。
- ・年代別にみると、20代、30代で「勤労に関する支援（就労支援、リストラ問題、過重労働など）」の割合が高い。

回答者基本属性 n=1,336

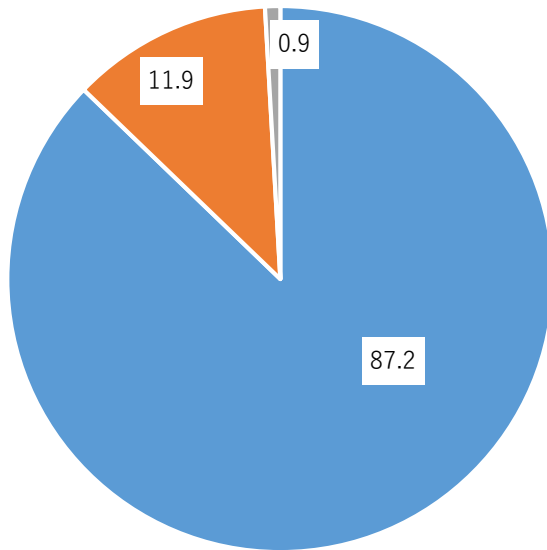


不安や悩みを受け止めてくれる人の有無①

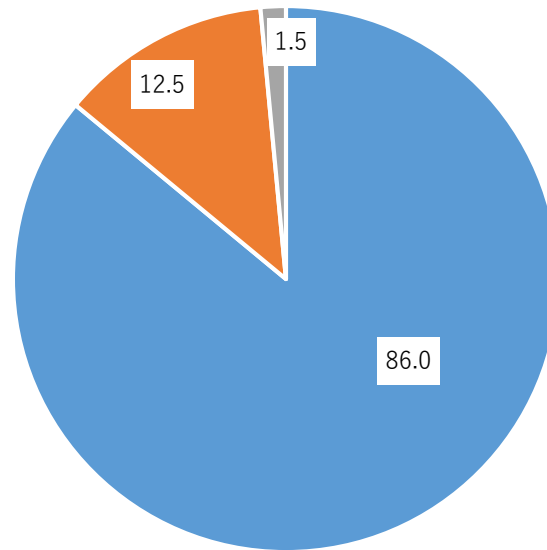
○不安や悩みを受け止めてくれる人がいるか尋ねたところ、87.2%の人が「いる」と回答した。

○過去の調査（平成29年度及び平成24年度調査）と比較しても、大きな変化は見られない。

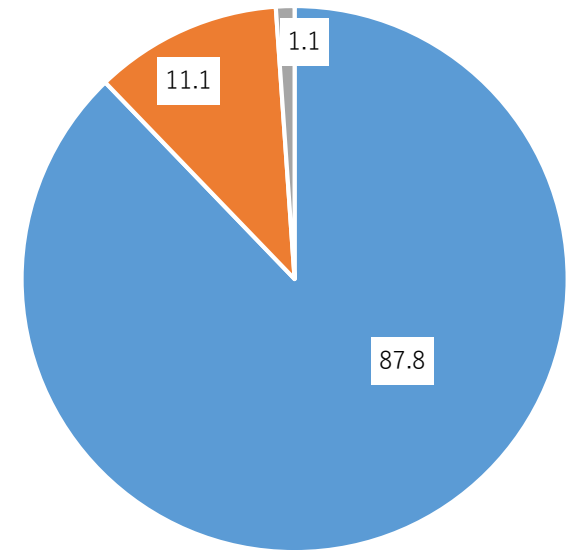
Q あなたの不満や悩みやつらい気持ちを受け止めてくれる人、耳を傾けてくれる人はいますか。



令和3年度調査
(n=1,336)



平成29年度調査
(n=1,295)



平成24年度調査
(n=1,362)

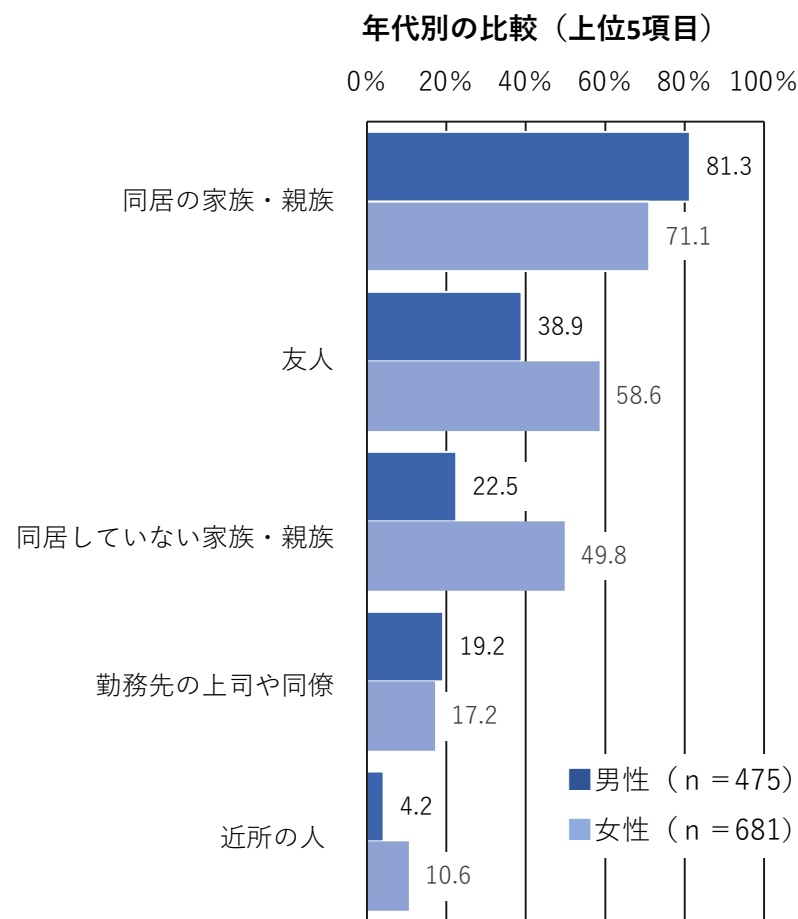
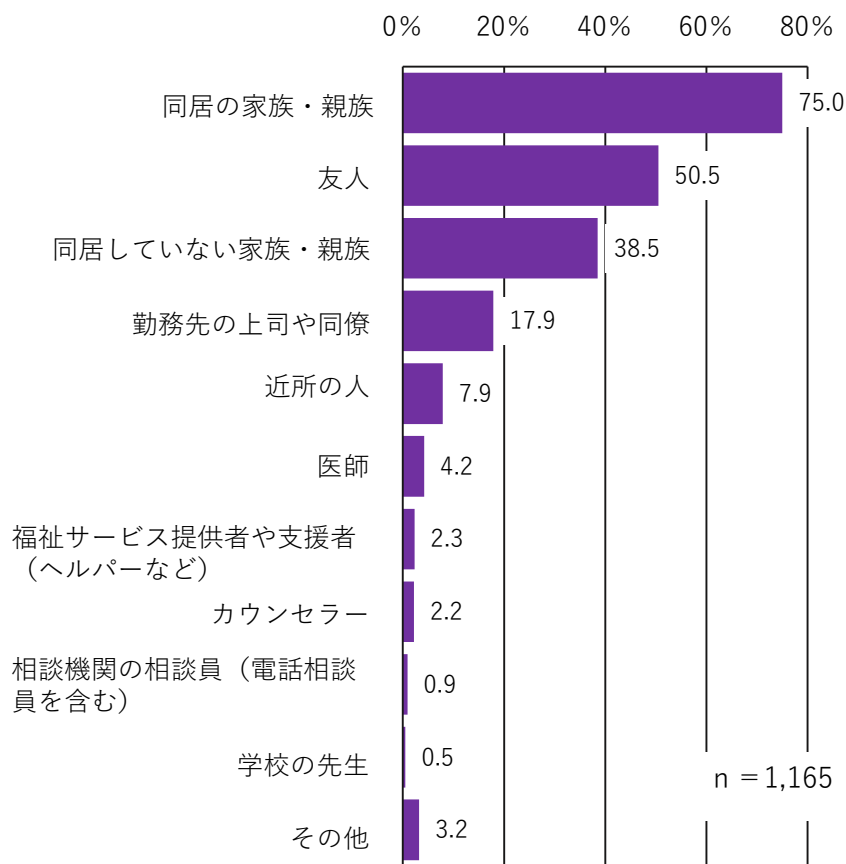
■ いる ■ いない ■ 無回答

不安や悩みを受け止めてくれる人の有無②

○不安や悩みを受け止めてくれる人は「同居の家族・親族」が75.0%と最も高く、次いで「友人」が50.5%、「同居していない家族・親族」が38.5%と続く。

○性別でみると、男性は、女性に比べ「同居の家族・親族」の割合が高く、女性は、男性に比べ「同居していない家族・親族」「友人」「近所の人」の割合が高い。

Q それはどなたですか。（複数回答可）

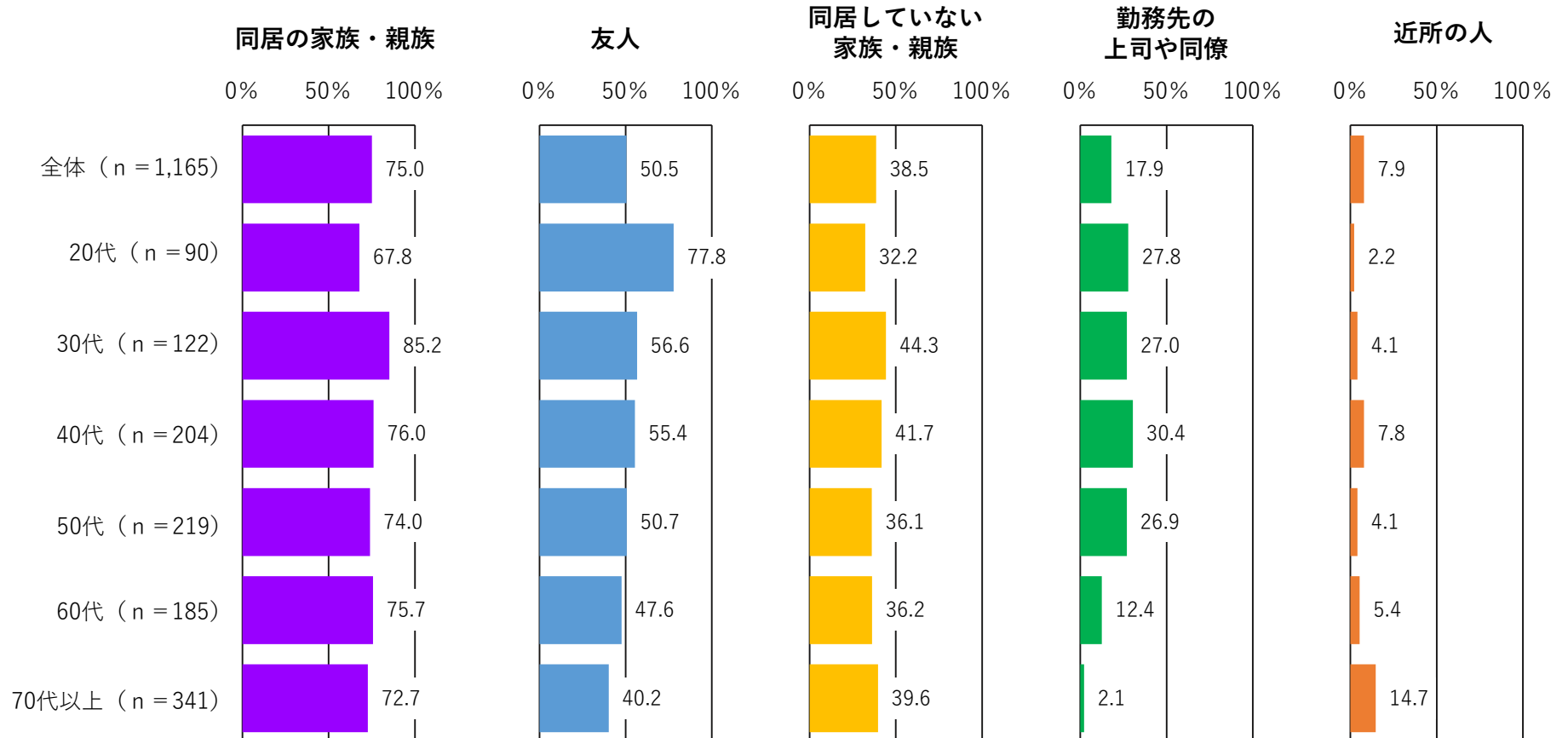


不安や悩みを受け止めてくれる人の有無③

○年代別にみると、他に比べ、20代では「友人」の割合が、30代では「同居の家族・親族」の割合が高い。
 ○70代以上では、他に比べ「近所の人」の割合が高い。

Q それはどなたですか。（複数回答可）

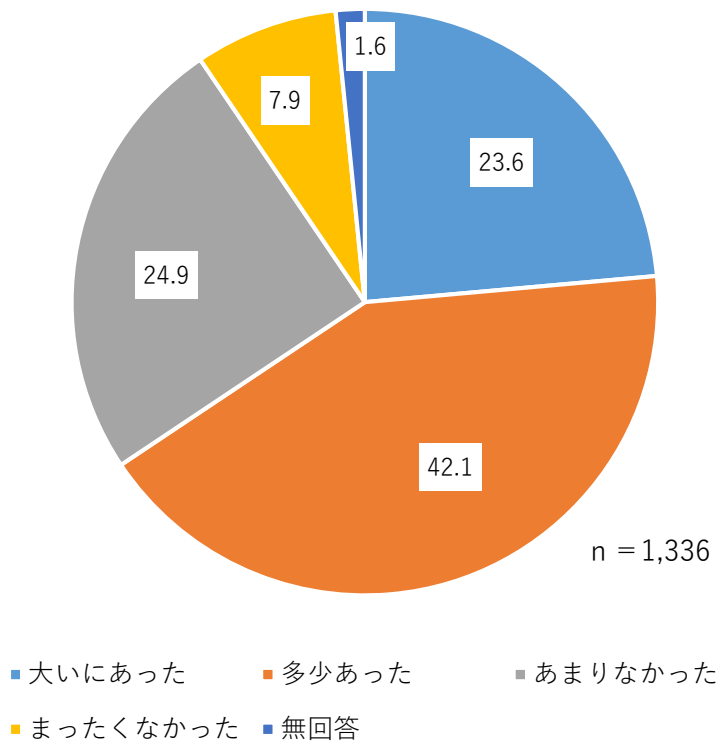
年代別の比較（上位5項目）



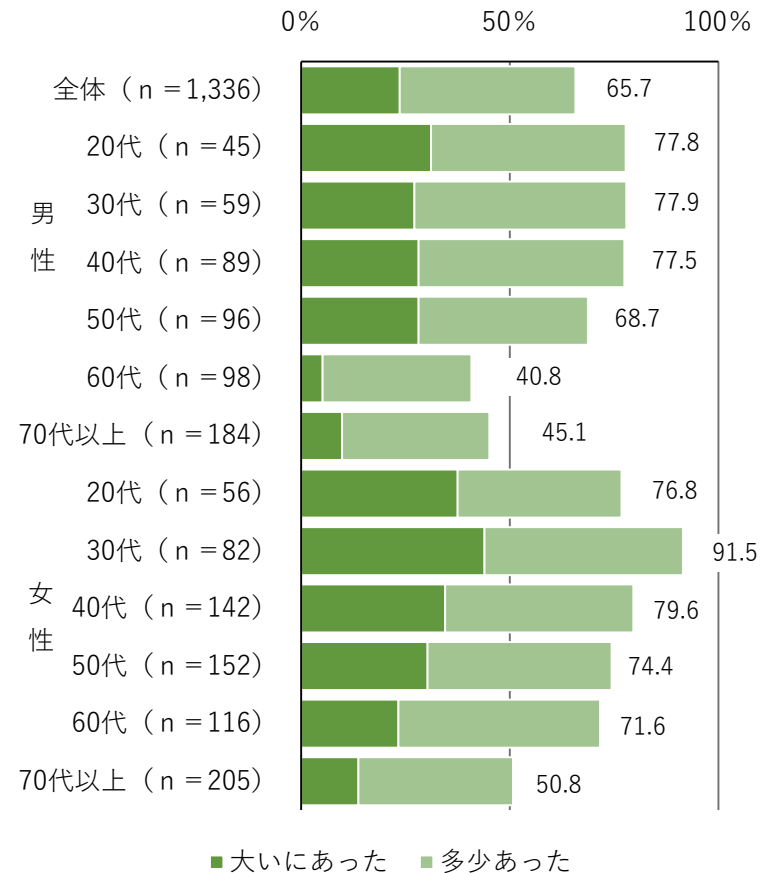
この1か月間の悩みやストレス等の有無

- この1か月間に日常生活で悩みやストレス等があったと感じる人（「大いにあった」「多少あった」の合計）は65.7%となっている。
- 性・年代別にみると、女性の30代でその割合が高い。

Q この1か月間に日常生活で不満、悩み、苦勞、ストレスなどがありましたか。



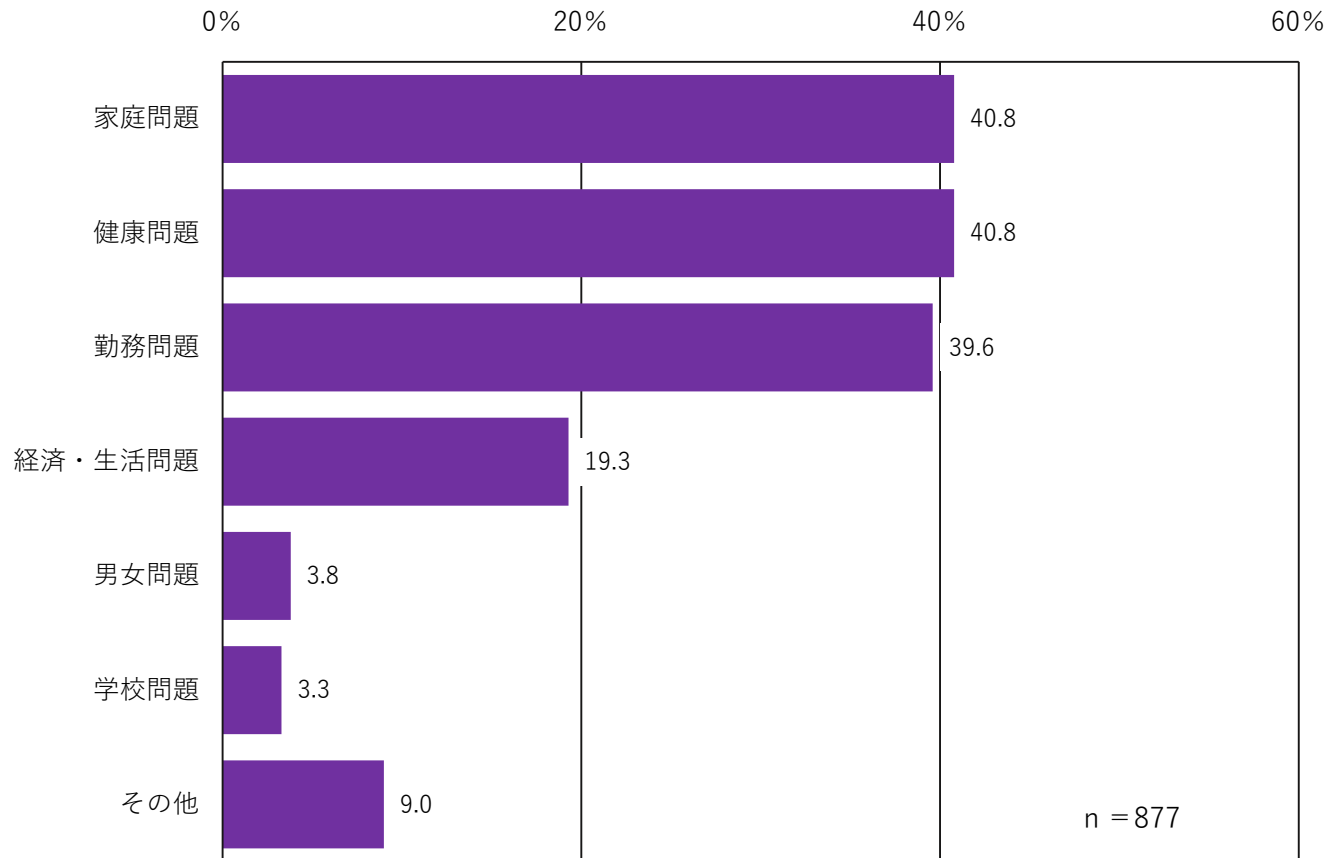
性・年代別の比較



悩みやストレス等の原因①

○日常生活で悩みやストレス等があったと感じる人のその原因は「家庭問題」及び「健康問題」40.8%と最も高く、次いで「勤務問題」が39.6%、「経済・生活問題」が19.3%と続く。

Q それほどのような事柄が原因ですか。（複数回答可）

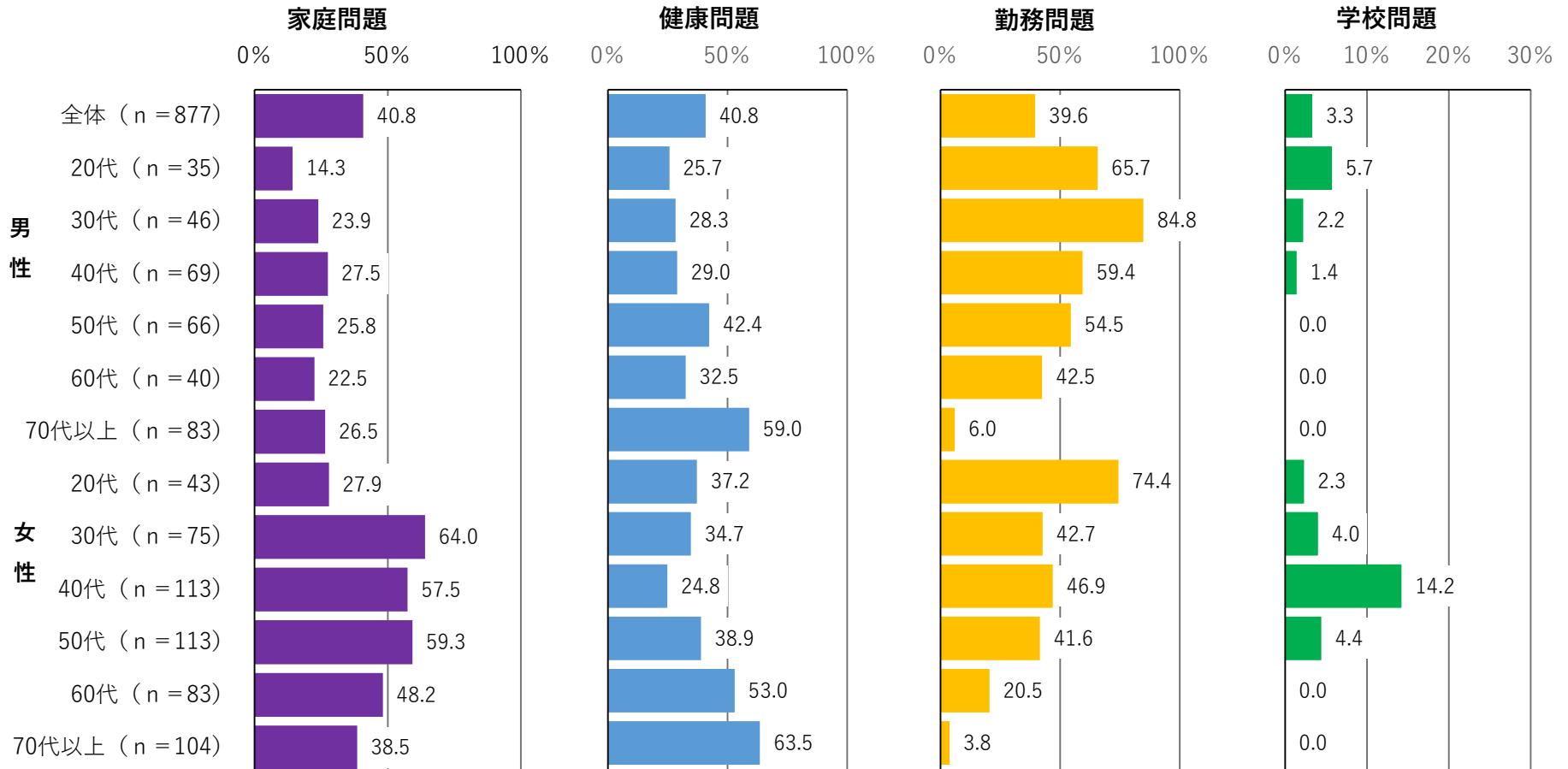


悩みやストレス等の原因②

- 男性は、女性に比べ「勤務問題」の割合が高く、中でも30代は、他の年代に比べ、その割合が特に高い。
- 女性は、男性に比べ「家庭問題」の割合が高い。40代では、他に比べ「学校問題」の割合が高い。

Q それほどどのような事柄が原因ですか。（複数回答可）

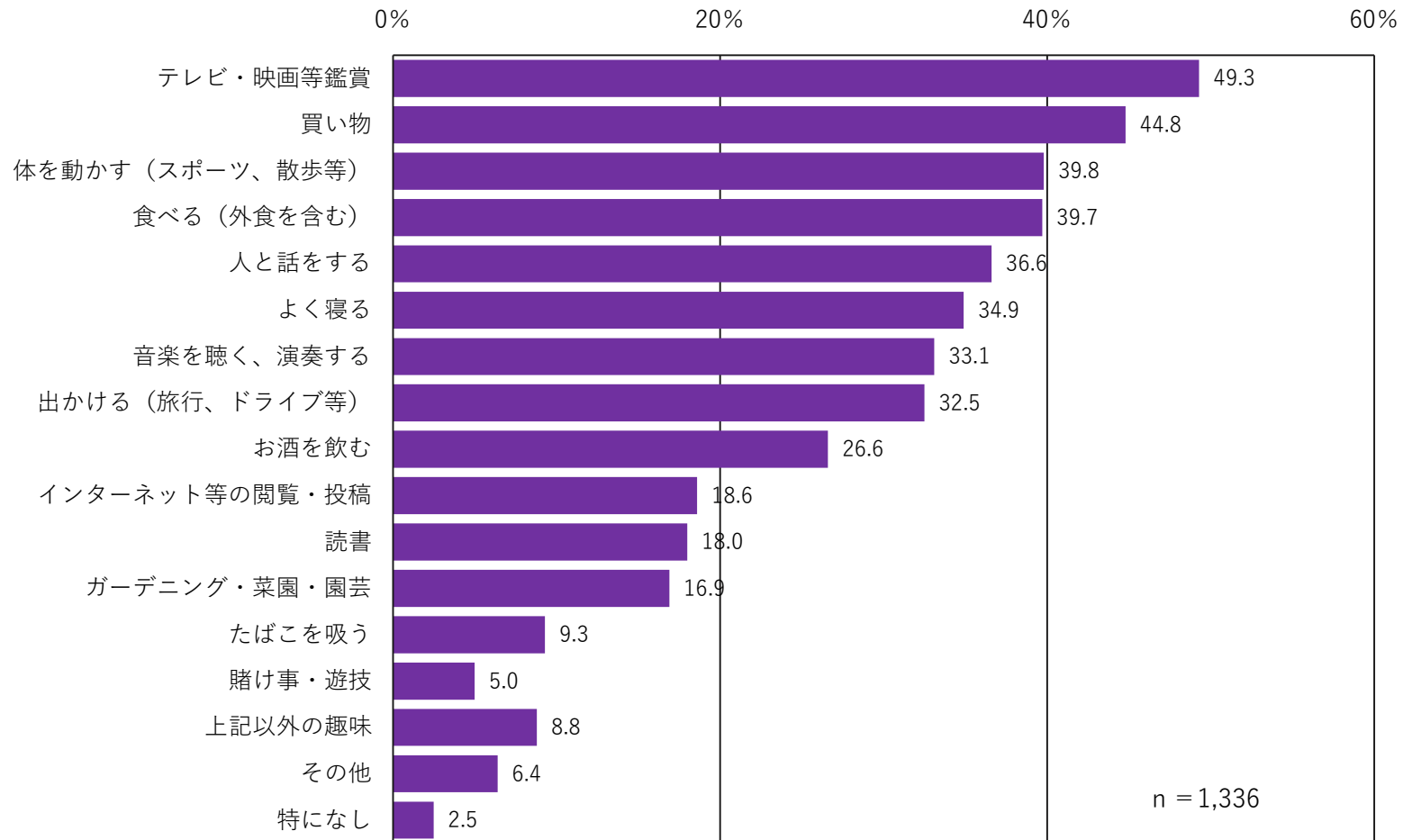
性・年代別の比較（上位3項目及び学校問題）



悩みやストレス等の解消方法①

○悩みやストレス等の解消方法は「テレビや映画を観たり、ラジオを聞いたりする」が49.3%と最も高く、次いで「買い物」が44.8%、「体を動かす（スポーツ、登山、散歩など）」が39.8%と続く。

Q あなたが日常生活での悩みやストレスを解消するためによく行うことは何ですか。（複数回答可）



悩みやストレス等の解消方法②

性・年代別の比較（上位3項目）

		第1位	第2位	第3位
男性	20代 (n = 45)	よく寝る 55.6%	音楽を聴く・演奏する 44.4%	食べる 42.2%
	30代 (n = 59)	テレビ・映画鑑賞 49.2%	体を動かす・食べる 45.8%	
	40代 (n = 89)	お酒を飲む 41.6%	体を動かす・食べる・よく寝る 38.2%	
	50代 (n = 96)	テレビ・映画鑑賞 45.8%	体を動かす 44.8%	お酒を飲む 42.7%
	60代 (n = 98)	体を動かす 51.0%	テレビ・映画鑑賞 46.9%	お酒を飲む 44.9%
	70代以上 (n = 184)	体を動かす 53.8%	テレビ・映画鑑賞 47.3%	お酒を飲む 31.0%
女性	20代 (n = 56)	音楽を聴く・演奏する 69.6%	食べる 66.1%	買い物 62.5%
	30代 (n = 82)	買い物 72.0%	食べる 64.6%	人と話をする 59.8%
	40代 (n = 142)	食べる 66.2%	買い物 62.0%	人と話をする 55.6%
	50代 (n = 152)	買い物 57.9%	テレビ・映画鑑賞 55.3%	食べる 52.6%
	60代 (n = 116)	テレビ・映画鑑賞 54.3%	買い物 52.6%	体を動かす 40.5%
	70代以上 (n = 205)	テレビ・映画鑑賞 56.1%	買い物 52.2%	体を動かす 40.5%

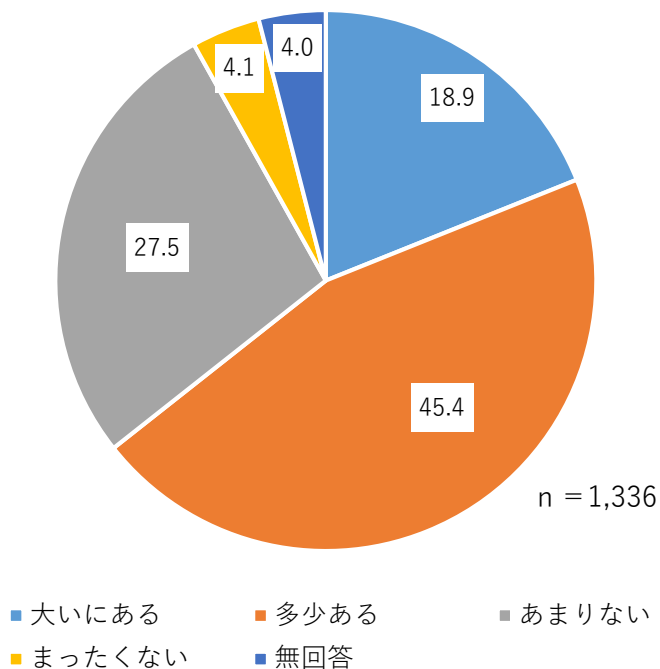
2 悩みやストレスについて

新型コロナウイルス感染症拡大による影響①

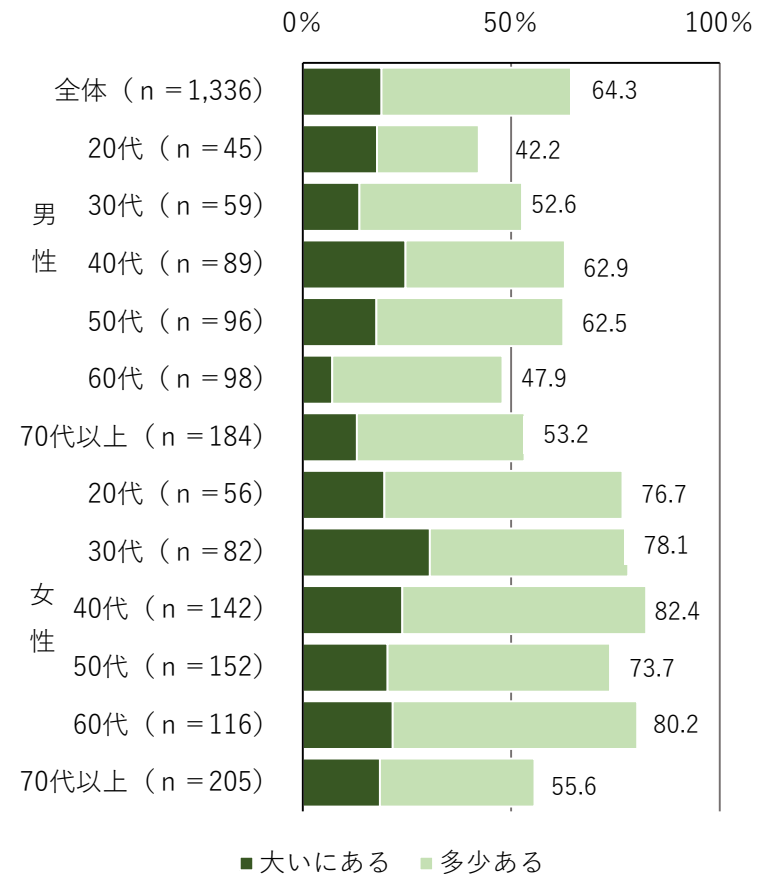
○コロナ禍を原因としたストレスを感じるかどうか尋ねたところ、64.3%の人が「ある」（大いにある、多少あるの合計）と回答した。

○女性は、男性に比べ「ある」と回答した割合が高く、40代と60代でその割合が高い。

Q コロナ禍を原因とした不安や困り事など、ストレスを感じることがありますか。



性・年代別の比較

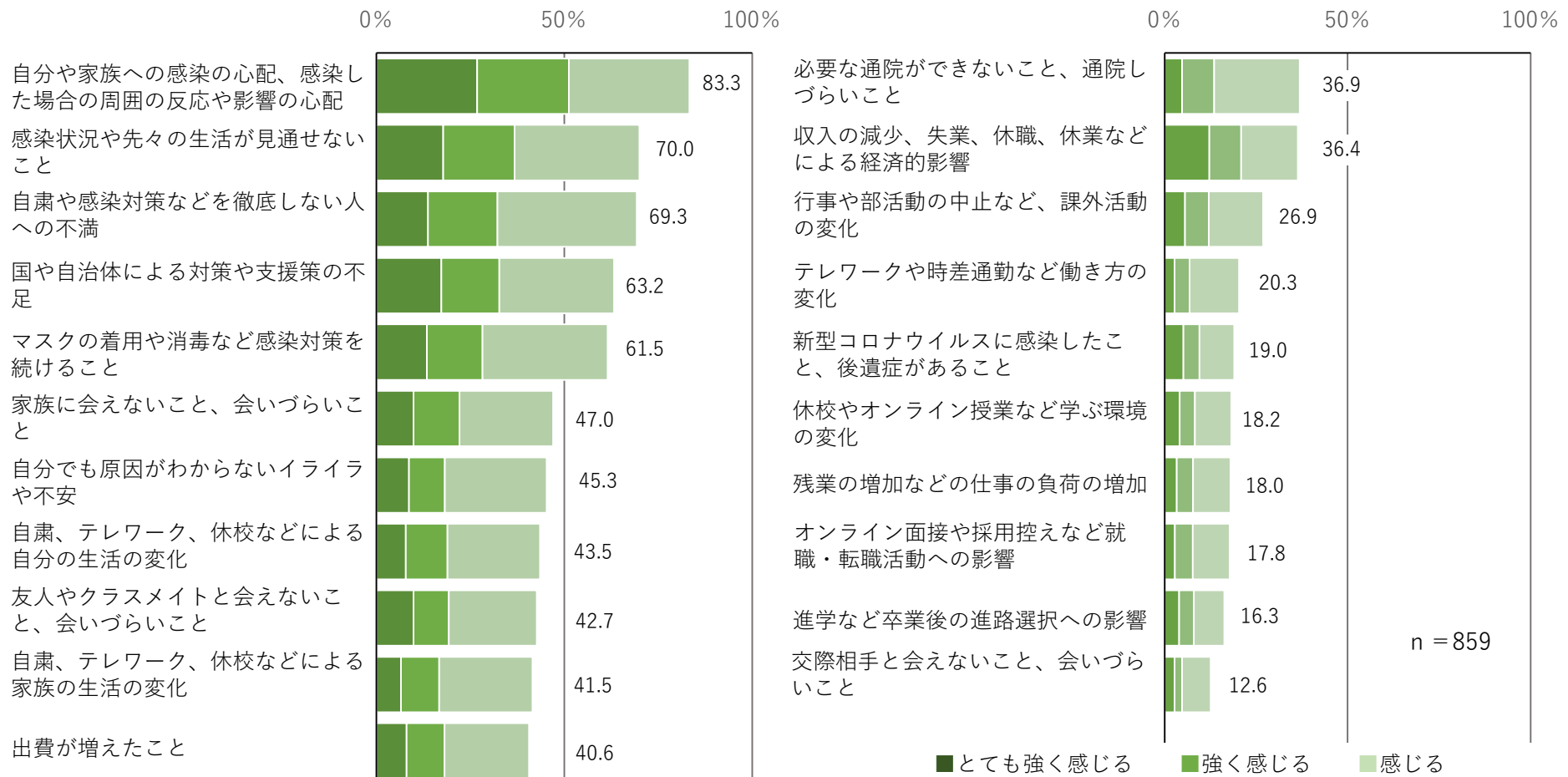


2 悩みやストレスについて

新型コロナウイルス感染症拡大による影響②

○そのストレスがどのような事柄か尋ねると、「自分や家族への感染の心配、感染した場合の周囲の反応や影響の心配」が83.3%（「とても強く感じる」「強く感じる」「感じる」の合計）と最も高く、次いで「感染状況や先々の生活が見通せないこと」が70.0%、「自粛や感染対策などを徹底しない人への不満」が69.3%と続く。

Q それはどのような事柄についてストレスを感じましたか。（複数回答可）



2 悩みやストレスについて

新型コロナウイルス感染症拡大による影響③

○ストレスがあった事柄のうち、性別差が最も大きいのは「家族に会えないこと、会いづらいこと」で21.3ポイントとなっている。次いで「友人やクラスメイトと会えないこと、会いづらいこと」が14.6ポイント、「感染状況や先々の生活が見通せないこと」が11.3ポイントとなっている。

性別差が大きい事柄（5ポイント以上差があるもの）

事柄	感じる（計）%		ポイント差	
	男性	女性		
家族に会えないこと、会いづらいこと	33.4	54.7	21.3	男性<女性
友人やクラスメイトと会えないこと、会いづらいこと	33.5	48.1	14.6	男性<女性
感染状況や先々の生活が見通せないこと	62.7	74.0	11.3	男性<女性
自分でも原因がわからないイライラや不安	38.5	49.6	11.1	男性<女性
国や自治体による対策や支援策の不足	57.3	66.7	9.4	男性<女性
自分や家族への感染の心配、感染した場合の周囲の反応や影響の心配	78.1	86.3	8.2	男性<女性
進学など卒業後の進路選択への影響	10.9	19.0	8.1	男性<女性
出費が増えたこと	36.4	43.2	6.8	男性<女性
休校やオンライン授業など学ぶ環境の変化	14.2	20.5	6.3	男性<女性
収入の減少、失業、休職、休業などによる経済的影響	40.1	34.4	5.7	男性>女性
自粛、テレワーク、休校などによる家族の生活の変化	38.3	43.6	5.3	男性<女性

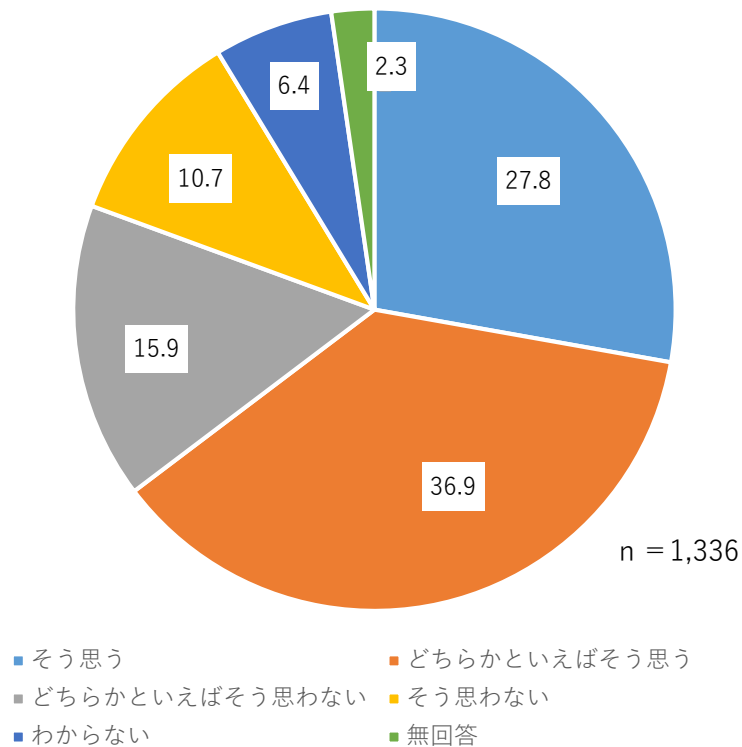
3 相談することについて

悩みやストレスについて、誰かに相談したいと思うか①

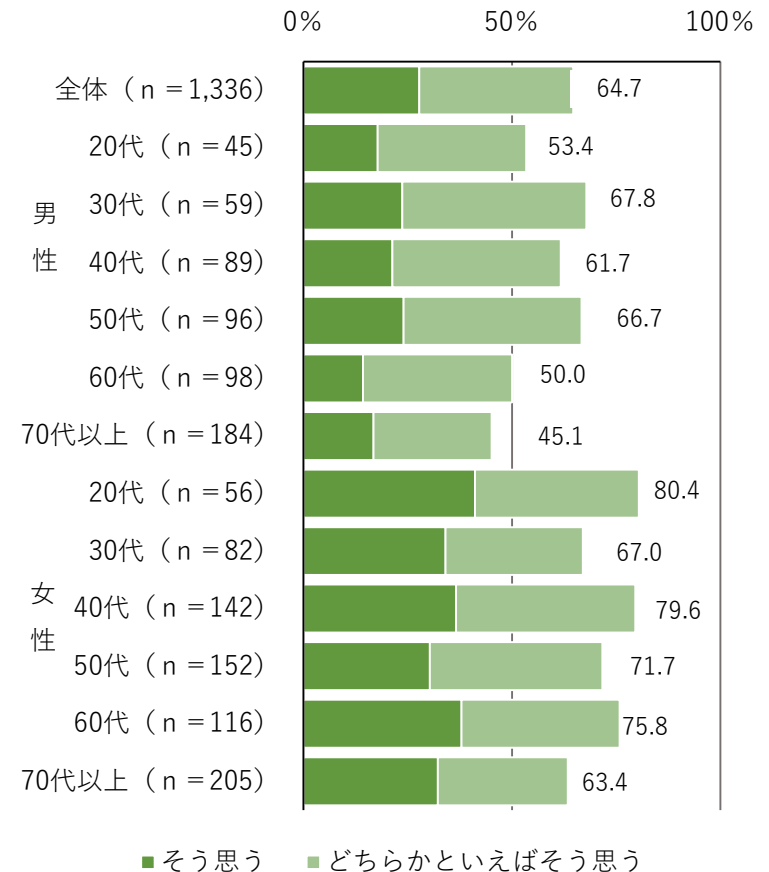
○悩みやストレスを感じたとき、誰かに相談したいと思うか尋ねたところ、64.7%（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）の人が「相談したい」と思っている一方で、26.6%（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計）の人が「相談をしたいとは思っていない」と回答した。

○性別にみると、男性に比べ、女性の方が「相談したいと思う」割合が高く、20代、40代はその割合が高い。

Q あなたは悩みやストレスを感じた時に、誰かに助けを求めたり、相談したいと思いますか。



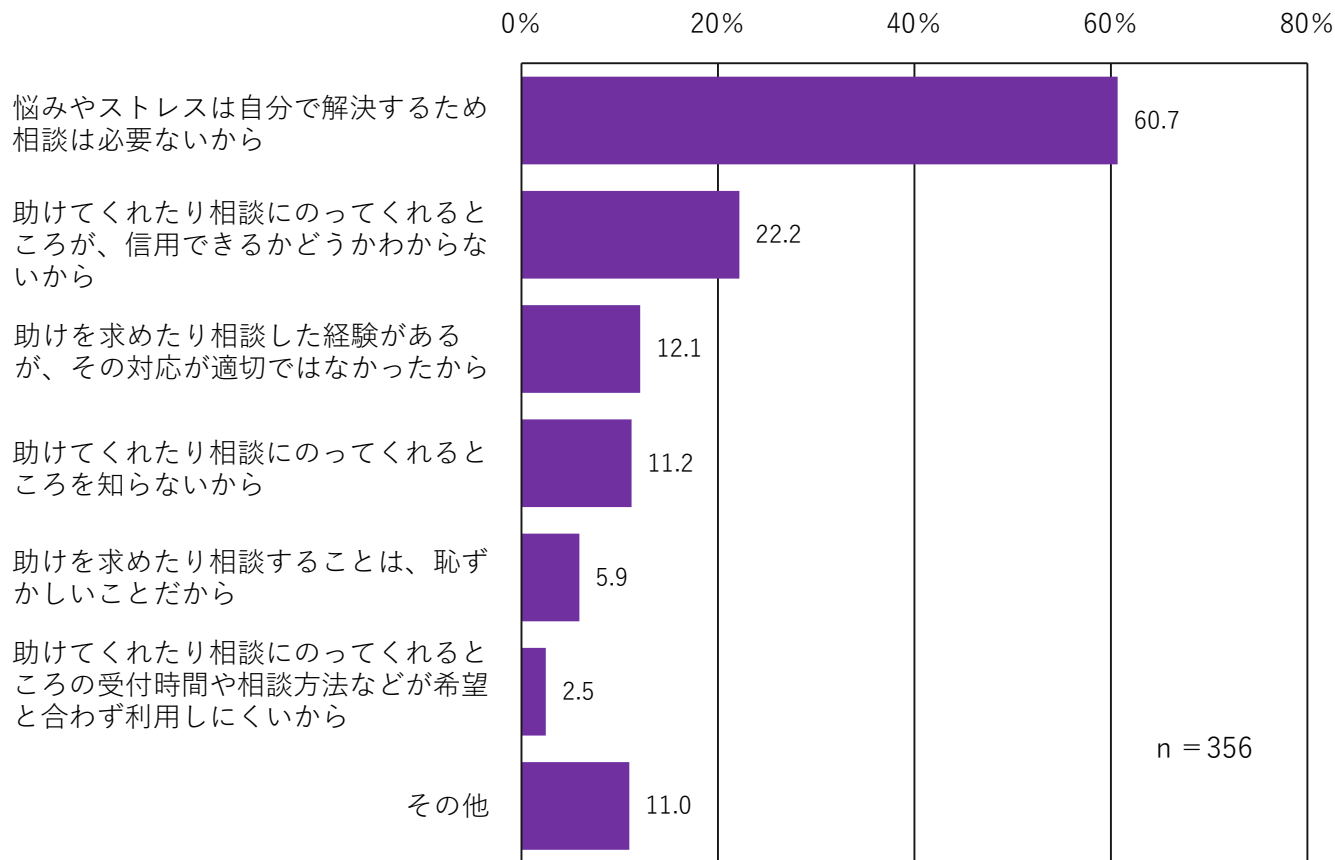
性・年代別の比較



悩みやストレスについて、誰かに相談したいと思わない理由

○相談したいと思わない人の理由を尋ねたところ、「自分で解決するため必要がない」が60.7%と特に高い。

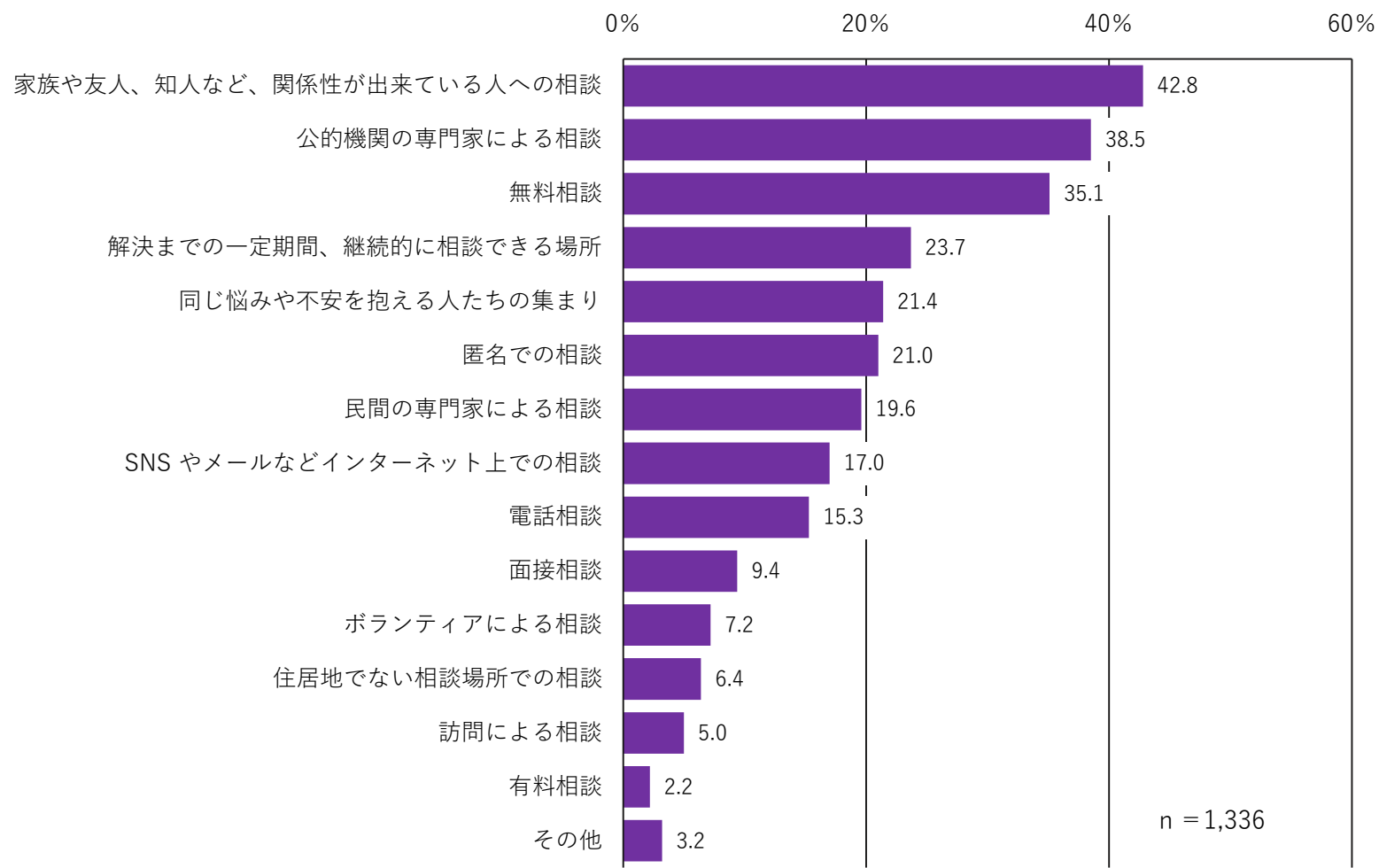
Q それはどのような理由からでしょうか。（複数回答可）



どのような相談の機会があればよいと思うか①

○どのような相談の機会があればよいか尋ねたところ、「家族や友人、知人など、関係性が出来ている人への相談」が42.8%と最も高く、次いで「公共機関の専門家による相談」が38.5%、「無料相談」が35.1%と続く。

Q あなたが悩みや困り事を抱えたときに、どのような相談の機会があればよいと思いますか。（複数回答可）



3 相談することについて

どのような相談の機会があればよいと思うか②

○相談の機会について、年代別にみると、他に比べ20代では、「SNSやメールなどインターネット上での相談」の割合が高い。

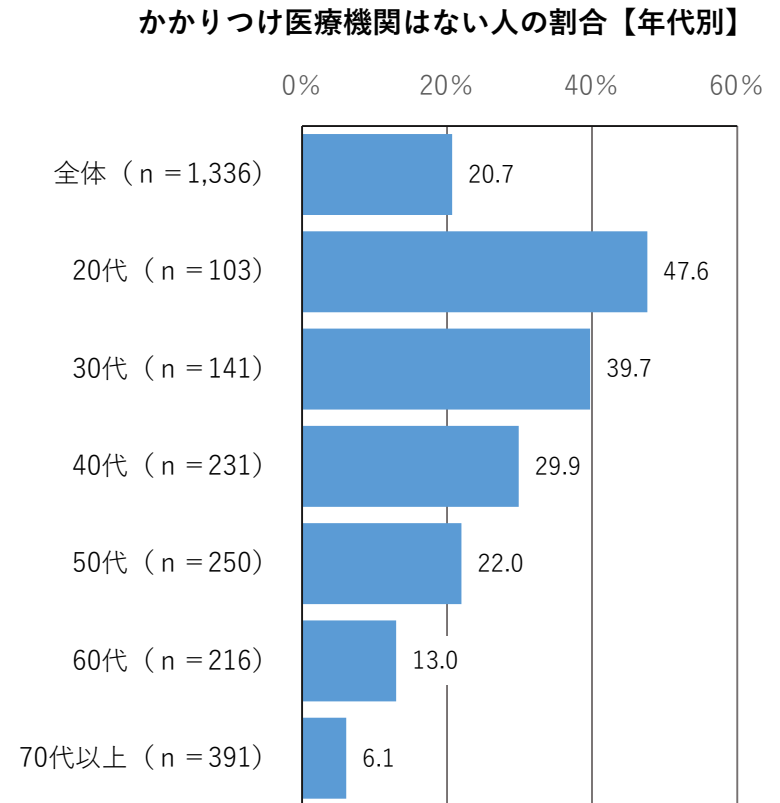
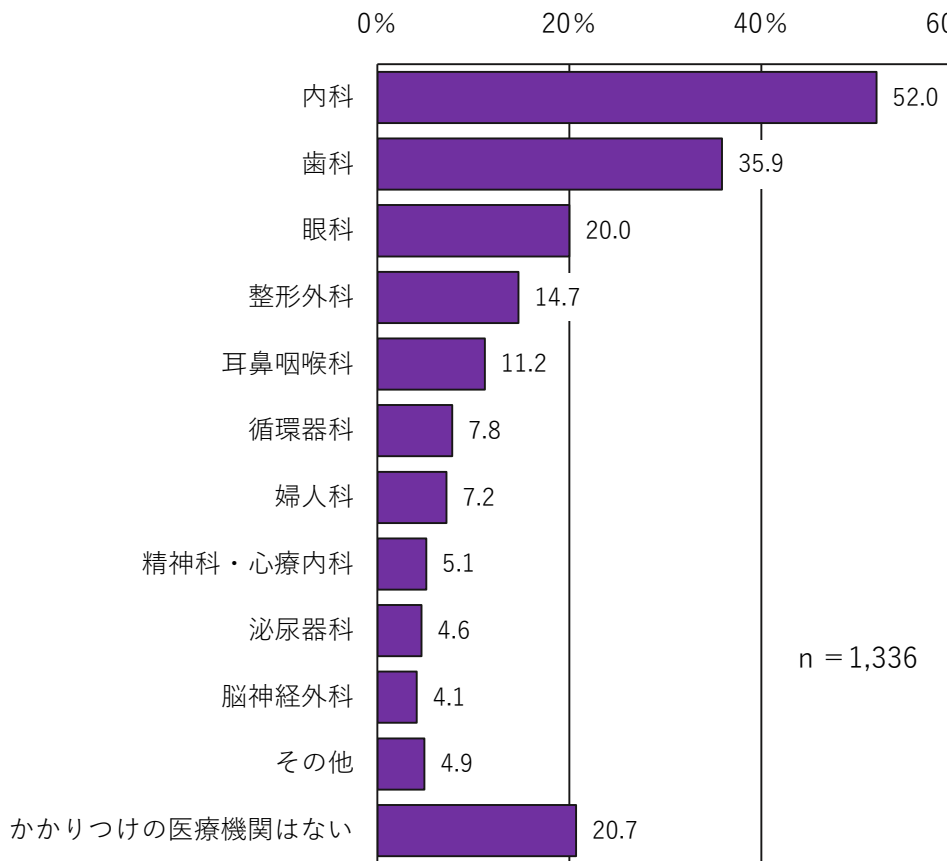
Q あなたが悩みや困り事を抱えたときに、どのような相談の機会があればよいと思いますか。（複数回答可）

	第1位	第2位	第3位
20代 (n = 103)	家族や友人、知人など関係性 のできている人への相談 51.5%	SNSやメールなどインター ネット上の相談 35.9%	匿名での相談 31.1%
30代 (n = 141)	家族や友人、知人など関係性 のできている人への相談 52.5%	公的機関の専門家による相談 31.2%	匿名での相談 28.4%
40代 (n = 231)	家族や友人、知人など関係性 のできている人への相談 49.4%	無料相談 38.5%	公的機関の専門家による相談 34.6%
50代 (n = 250)	無料相談 47.2%	公的機関の専門家による相談 43.2%	家族や友人、知人など関係性 のできている人への相談 39.6%
60代 (n = 216)	家族や友人、知人など関係性 のできている人への相談 44.4%	公的機関の専門家による相談 43.1%	無料相談 35.6%
70代以上 (n = 391)	公的機関の専門家による相談 41.2%	家族や友人、知人など関係性の 34.0%	無料相談 29.4%

かかりつけの医療機関の有無

- かかりつけの医療機関の有無について尋ねたところ、「内科」が52.0%と最も高く、次いで「歯科」が35.9%と続く一方で、「かかりつけ医療機関はない」が20.7%となっている。
- 「かかりつけ医療機関はない」人を年代別にみると、他に比べ20代、30代はその割合が高い。

Q 現在、あなたはかかりつけの医療機関がありますか。（複数回答可）

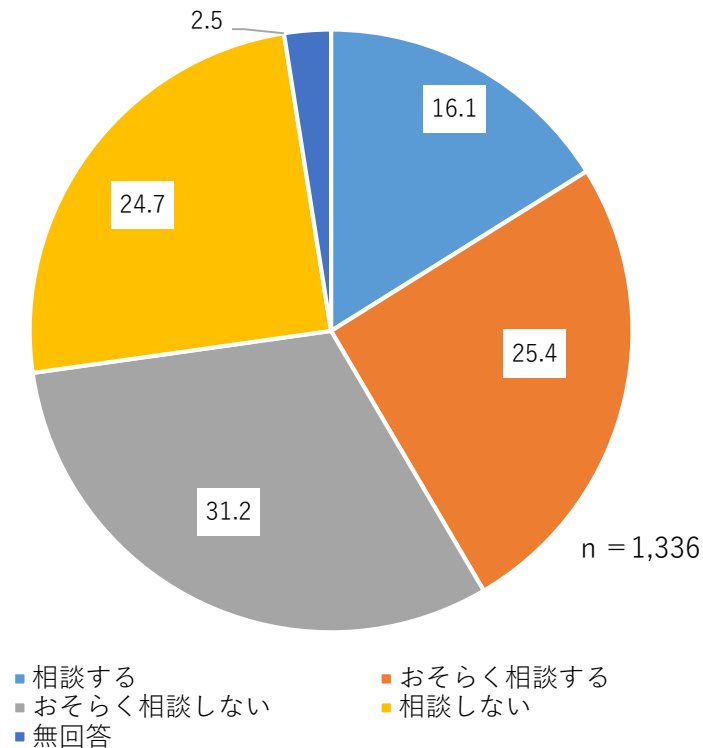


3 相談することについて

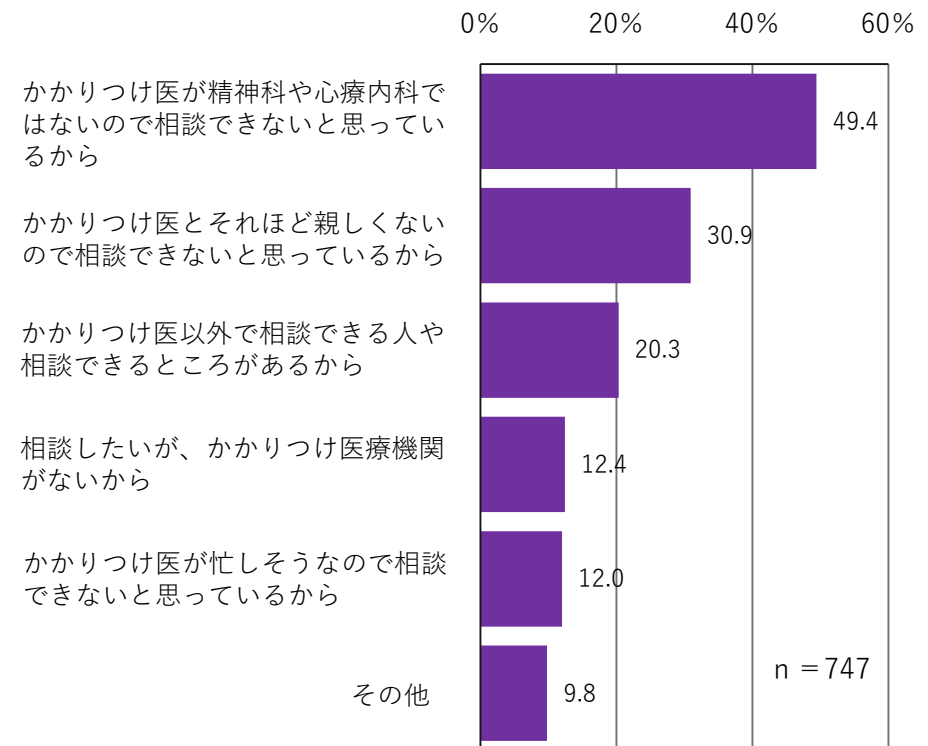
大きな精神ストレスを抱えた時、かかりつけ医療機関への相談するか

- 大きな精神的ストレスを抱えた時、かかりつけの医師に相談するか尋ねたところ、「相談しない」が55.9%で（「相談しない」「おそらく相談しない」の合計）、「相談する」41.5%（「相談する」「おそらく相談する」の合計）を上回っている。
- 「相談しない」理由は、「かかりつけ医が精神科や心療内科ではないから」が49.9%と最も高く、次いで「かかりつけ医とそれほど親しくないから」が30.9%と続く。

Q 大きな精神的なストレスを抱えてしまったら、かかりつけの医療機関の医師に相談しますか。



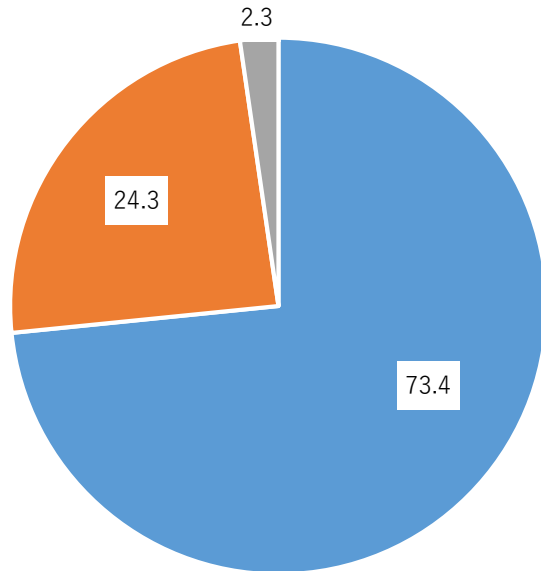
Q それはどういう理由からですか。（複数回答可）



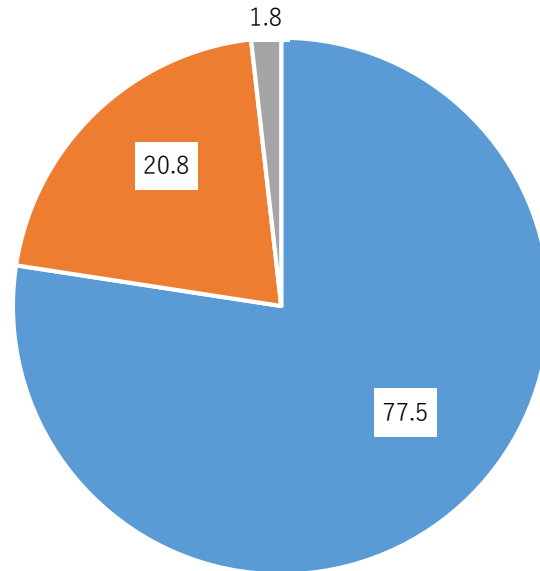
困っている人を見かけたとき、声をかけようと思うか

- 困っている人を見かけたとき、声をかけようと思うか尋ねたところ、73.4%の人が「はい」と回答した。
- 過去の調査（平成29年度調査）と比較すると、「はい」と回答した人の割合は若干減少している（77.5%→73.4%）が、大きな変化はみられない。

Q 困っている人を見かけたとき、あなたは声をかけようと思いますか。



令和3年度調査
(n=1,336)



平成29年度調査
(n=1,295)

■ はい ■ いいえ ■ 無回答

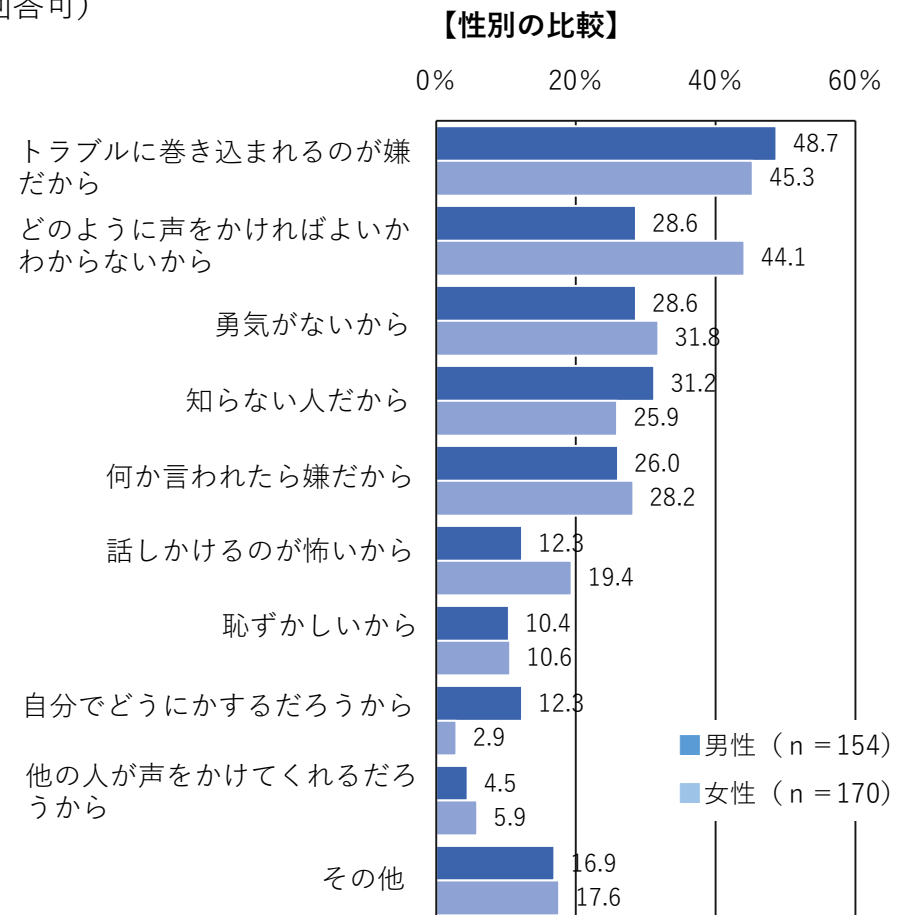
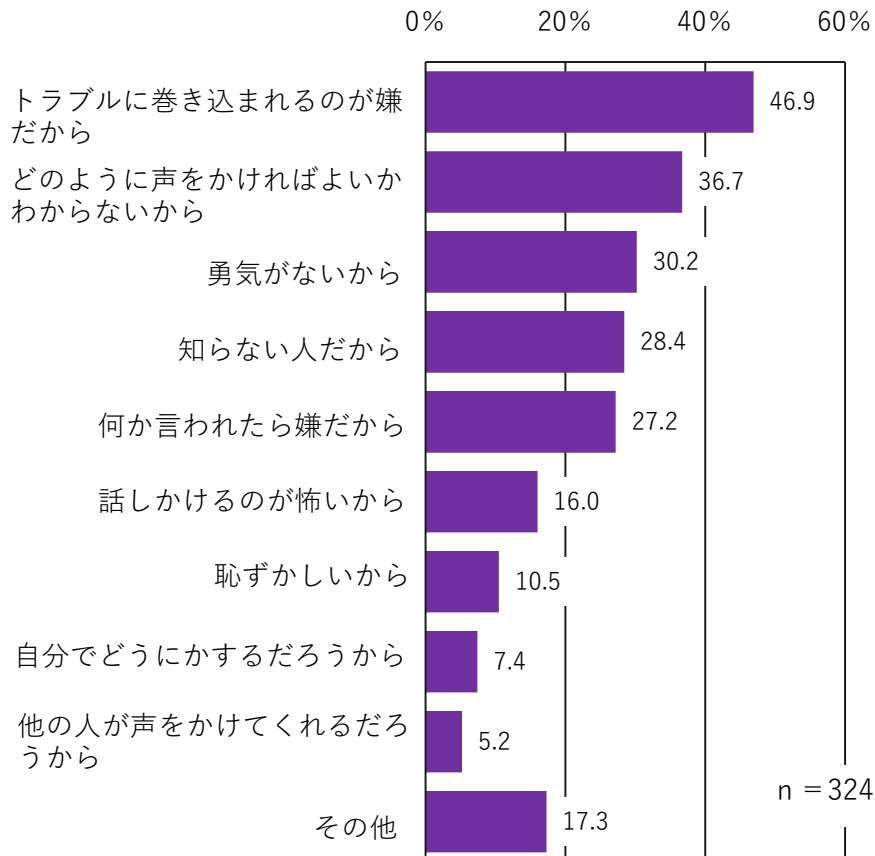
3 相談することについて

声をかけようと思わない理由

○声をかけようと思わない人にその理由を尋ねたところ、「トラブルに巻き込まれるのが嫌だから」が46.9%と最も高く、次いで「どのように声をかければよいかわからないから」が36.7%、「勇気がないから」が30.2%と続く。

○性別にみると、女性は、男性に比べ「どのように声をかければよいかわからないから」の割合が高い。

Q 声をかけられない理由はどのようなことですか。（複数回答可）

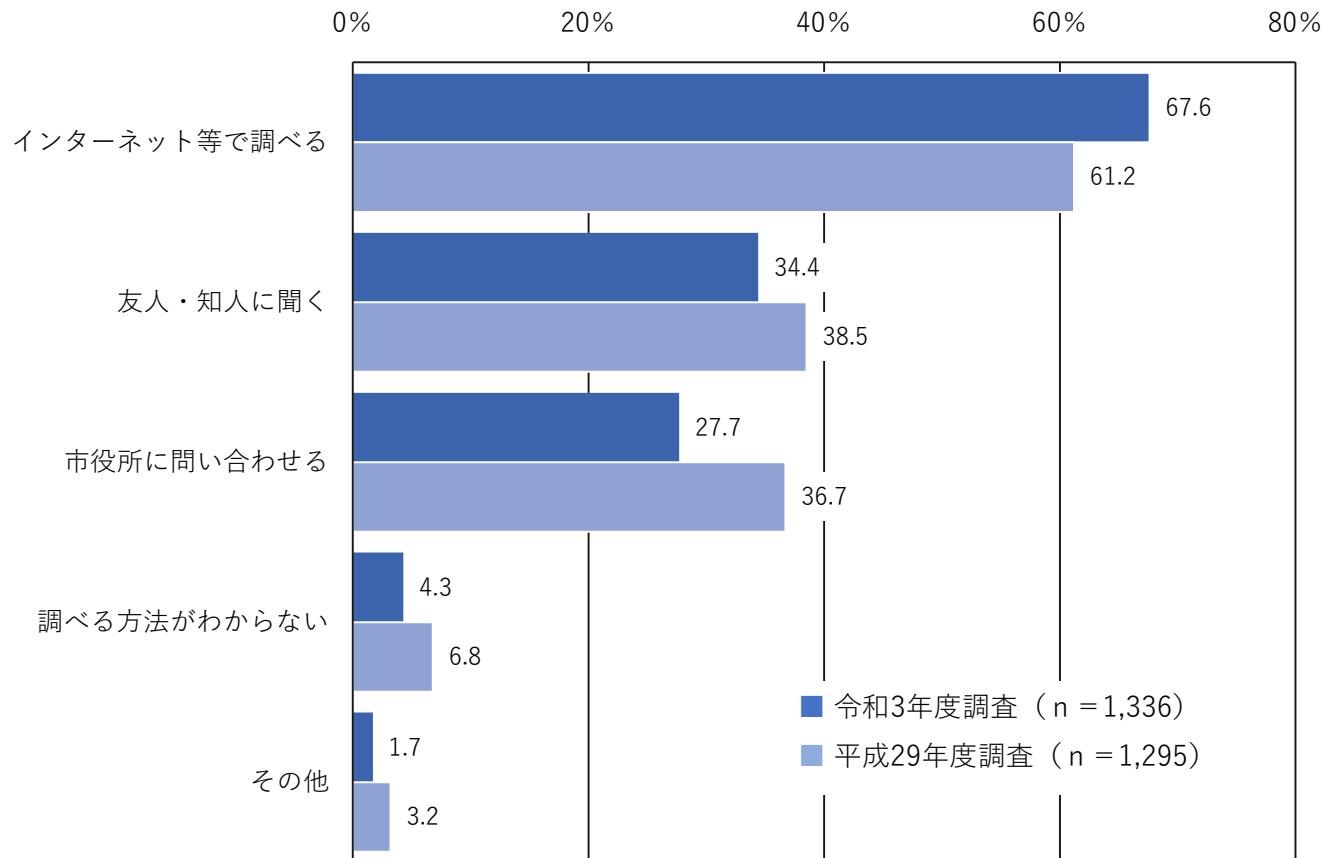


相談場所の調べ方①

○相談機関に相談するとした場合、どのような方法で調べるか尋ねたところ、「インターネット等で調べる」が67.6%と最も高く、次いで「友人・知人に聞く」が34.4%、「市役所に問い合わせる」が27.7%と続く。

○平成29年度調査と比較すると、「インターネット等で調べる」の割合が増加している。

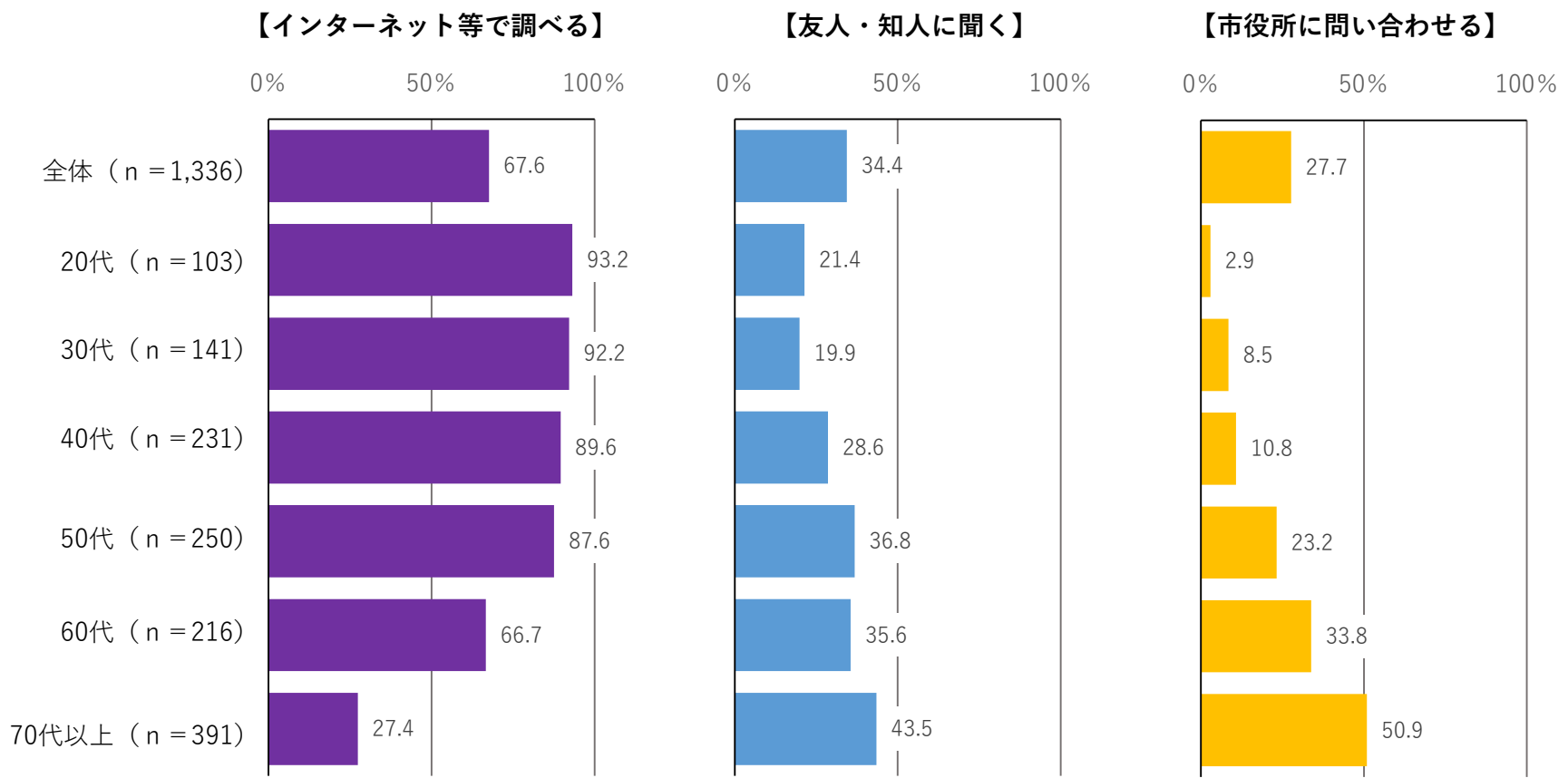
Q もし、あなたが相談機関に相談するとしたら、相談場所をどのような方法で調べますか。（複数回答可）



相談場所の調べ方②

○相談場所の調べ方について、年代別で見ると、若い世代では「インターネット等で調べる」の割合が高い。
○70代以上では、他に比べ、「友人・知人に聞く」「市役所に問い合わせる」の割合が高い。

Q もし、あなたが相談機関に相談するとしたら、相談場所をどのような方法で調べますか。（複数回答可）

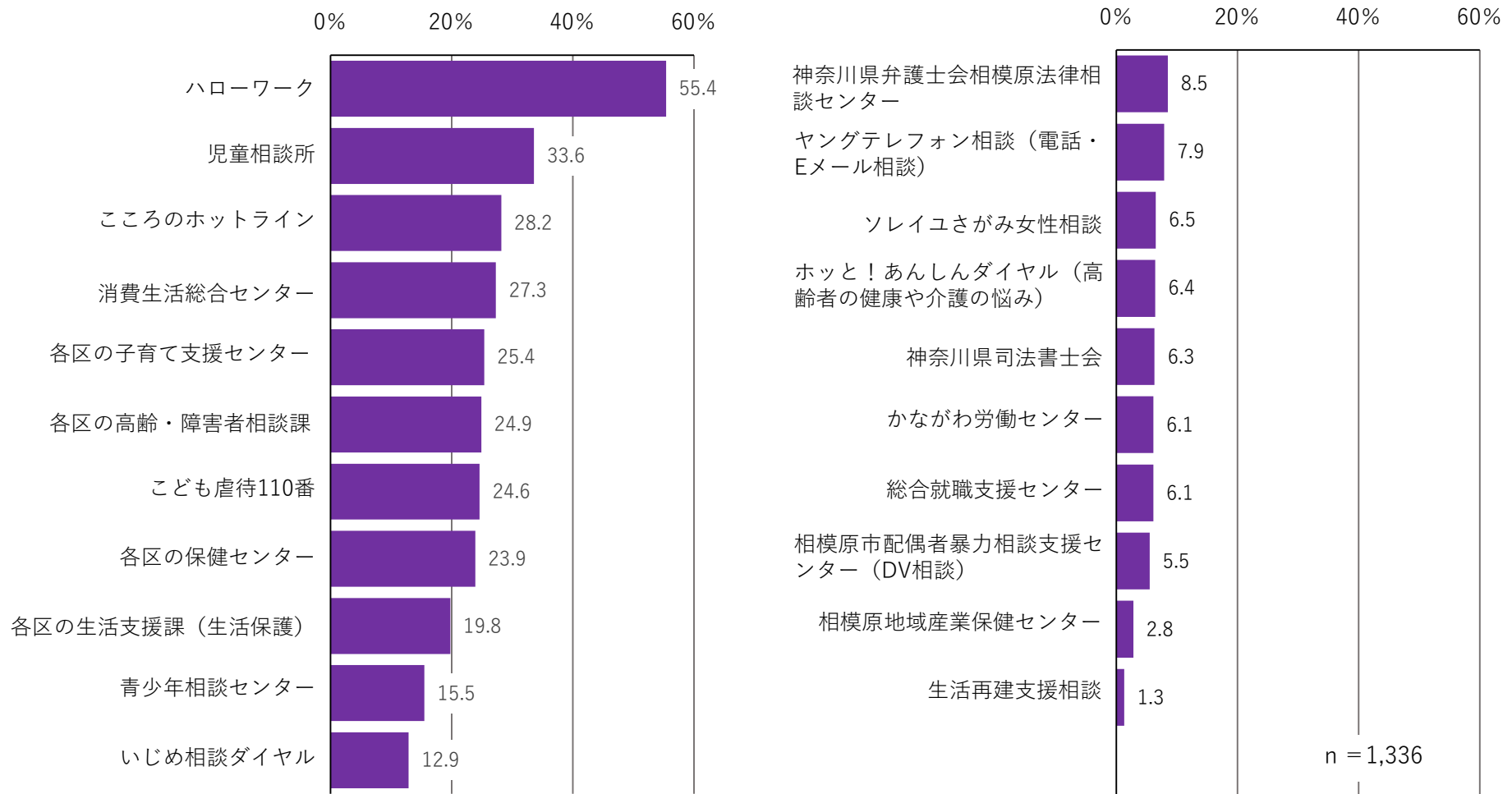


3 相談することについて

市内相談機関の認知度

○「ハローワーク」が55.4%で最も高く、次いで「児童相談所」が33.6%、「こころのホットライン」が28.2%と続く。

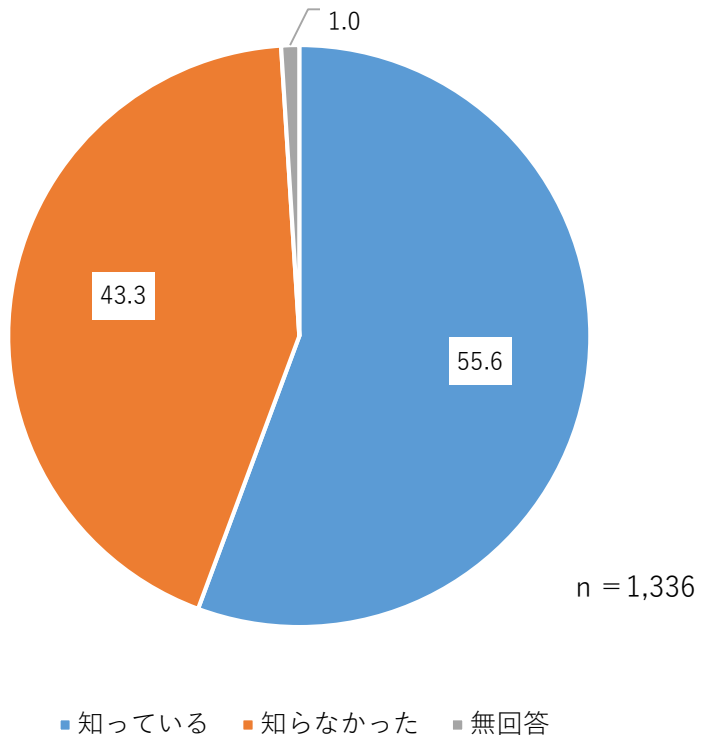
Q もし、あなたが相談機関に相談するとしたら、相談場所をどのような方法で調べますか。（複数回答可）



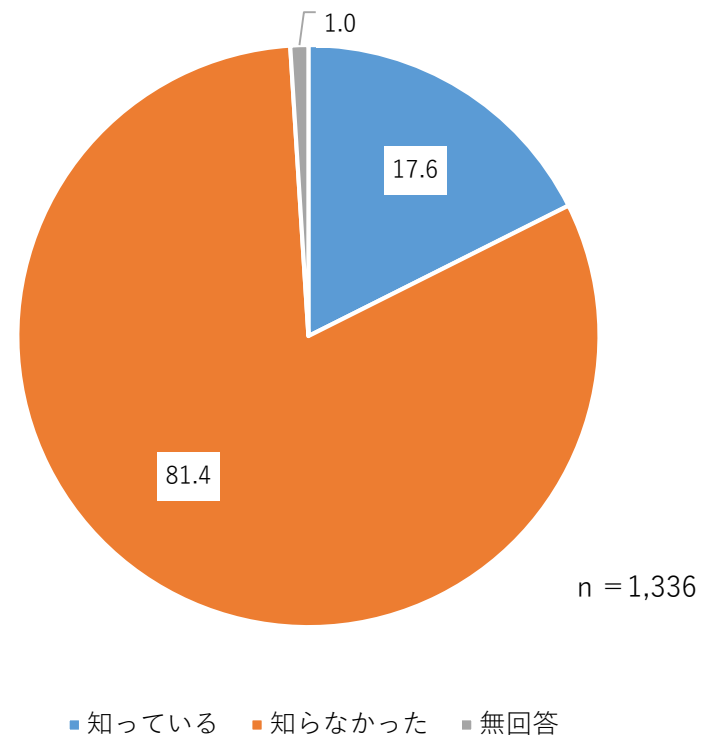
自殺者数等の認知度

- 我が国の自殺者数の現状について尋ねたところ、「知っている」と回答した人は55.6%と、半数以上の人が知っていると回答した。
- その一方で、自殺予防週間や自殺対策強化月間の認知度は低く、「知っている」と回答した人は17.6%であった。

Q 我が国では毎年2万人を超える人が自殺で亡くなっており、これは交通事故で亡くなった方の5~7倍の数となります。このように多くの方が自殺によって亡くなっていることをご存知ですか。



Q あなたは、自殺予防週間（9月10日から16日）または自殺対策強化月間（3月）があることをご存知ですか。

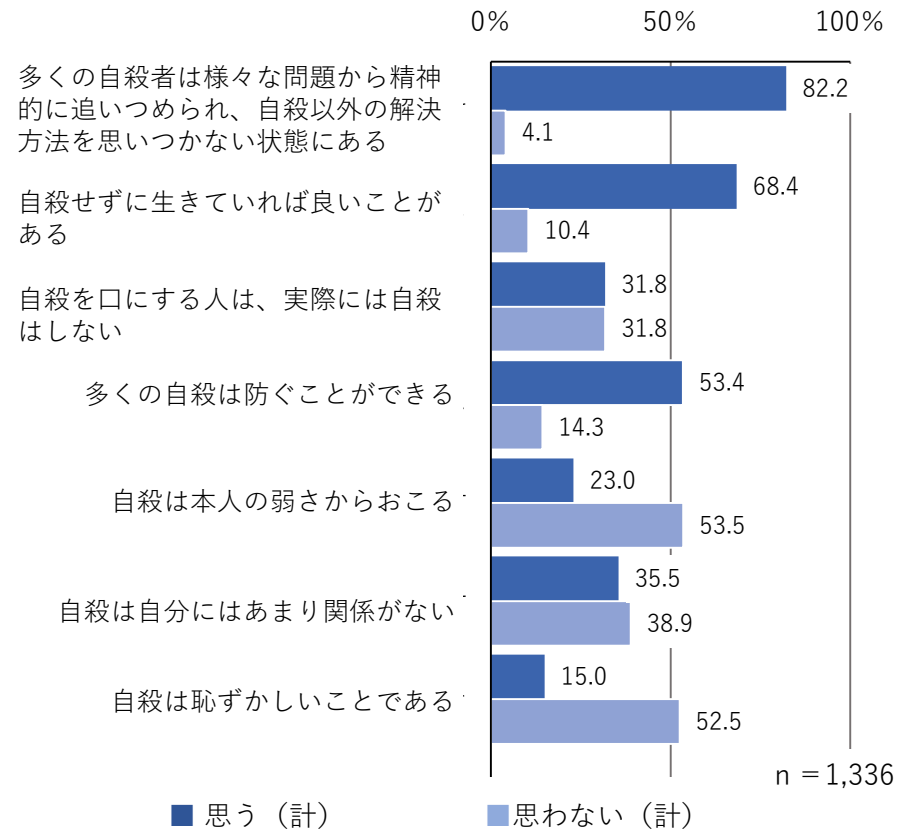
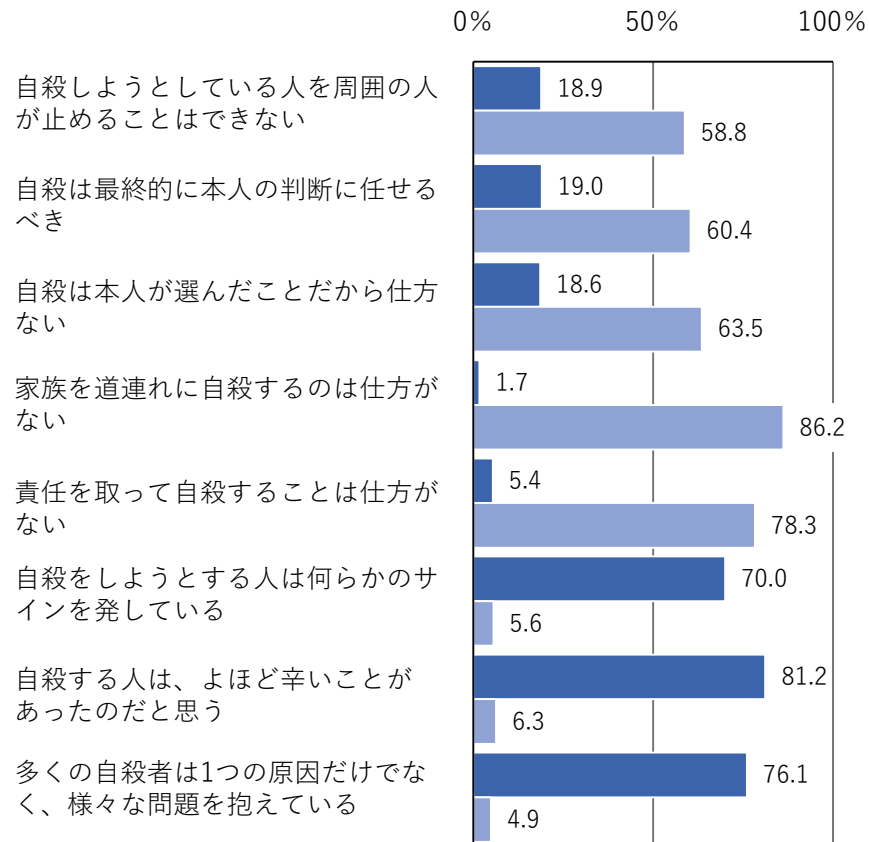


4 自殺に関する考えについて

自殺に関する認識について

- 自殺に関する考え方について4段階で評価してもらったところ、「思う」（「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計）は「多くの自殺者は様々な問題から精神的に追いつめられ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」が82.2%で最も高い。
- 一方、「思わない」（「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」の合計）は、「家族を道連れに自殺するのは仕方がない」が86.2%で最も高い。

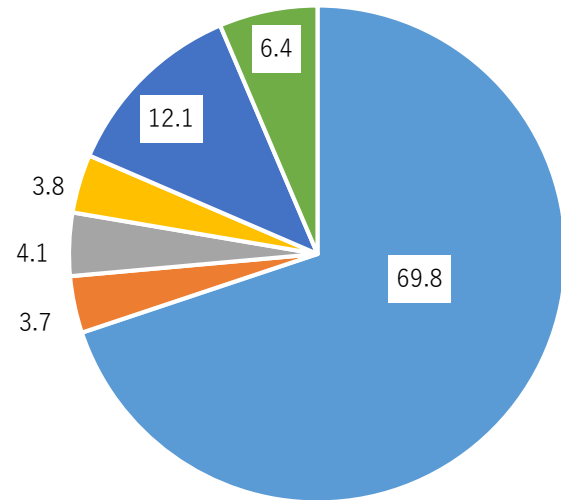
Q あなたは「自殺」についてどのように思いますか。



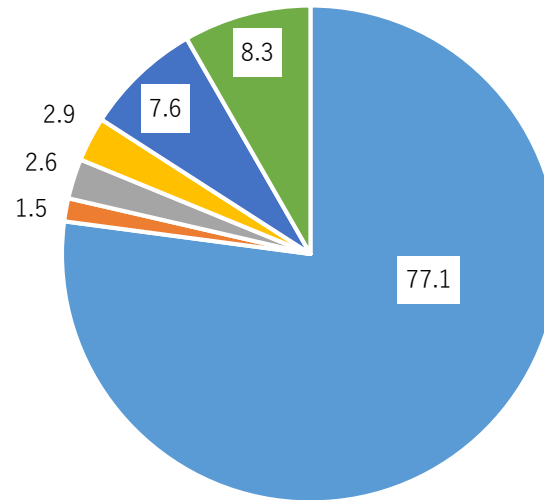
自殺をしたいと考えた経験

- これまでに「自殺したい」と考えたことがあるかを尋ねたところ、69.8%の人が「自殺を考えたことがない」と回答した一方で、「この1年以内の間に自殺したいと考えたことある」と回答した人が3.7%おり、これまでに自殺を考えたことのある人は合計で23.7%にもなる。
- 過去の調査（平成29年及び平成24年度調査）と比較すると、「自殺を考えたことがない」と回答した人の割合は大きく減少し、自殺を考えた人が増加している。
- 特に「この1年以内の間に自殺したいと考えたことのある」人の割合が倍増となっている。

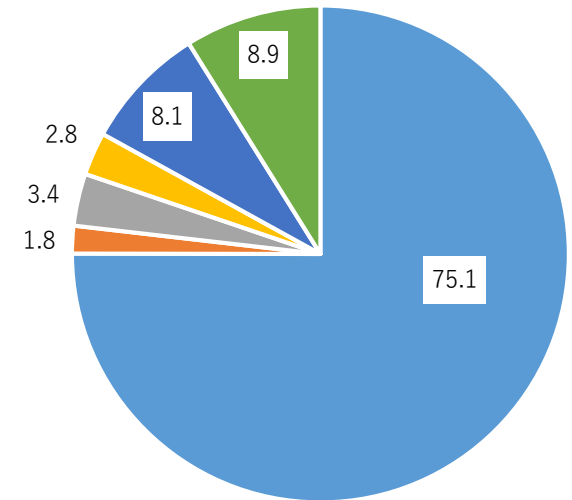
Q あなたはこれまでに深刻に「自殺したい」と考えたことはありますか。



令和3年度調査
(n=1,336)



平成29年度調査
(n=1,295)



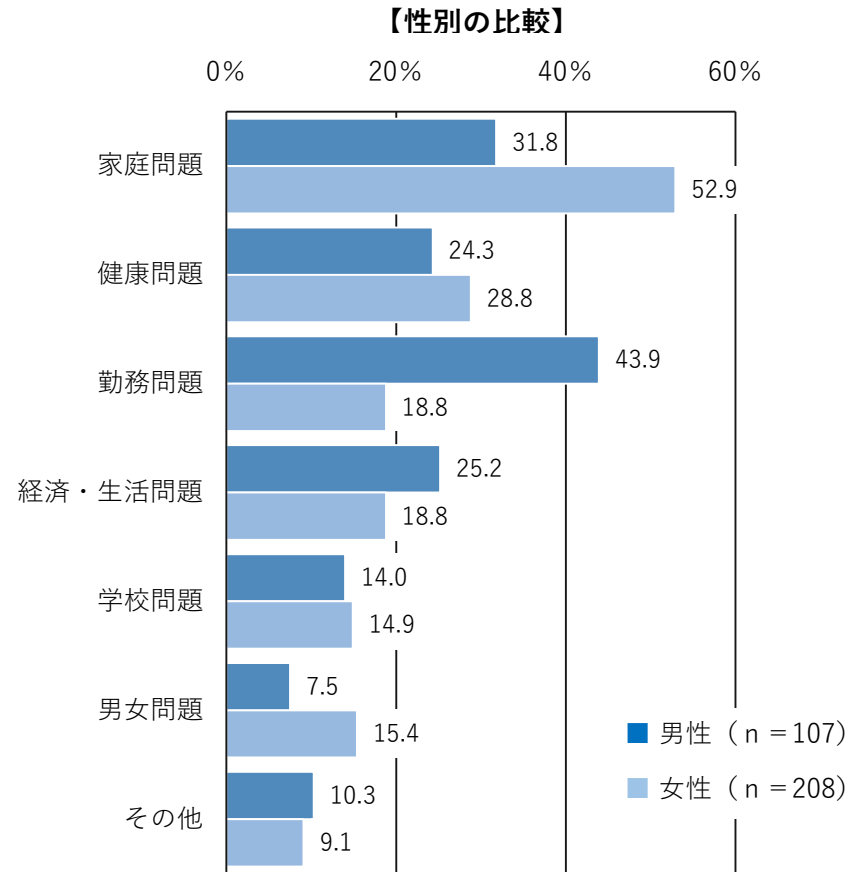
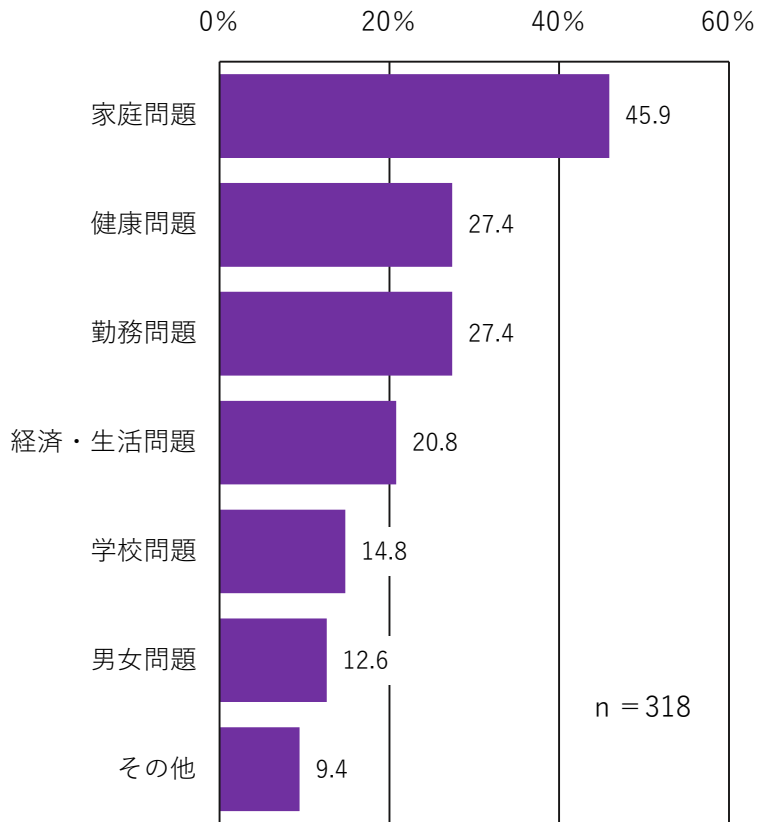
平成24年度調査
(n=1,362)

- これまでに自殺したいと考えたことはない
- この1年以内の間に自殺したいと考えたことがある
- ここ5年くらいの間に自殺したいと考えたことがある
- 5年～10年前に自殺したいと考えたことがある
- 10年以上前に自殺したいと考えたことがある
- 無回答

自殺を考えた理由

- 深刻に自殺したいと考えた理由を尋ねたところ、「家庭問題」が45.9%と最も高く、次いで「健康問題」、「勤務問題」が27.4%と続く。
- 考えた理由を性別で見ると、男性は「勤務問題」、女性は「家庭問題」が最も高くなっており、自殺したい理由に若干の違いがある。

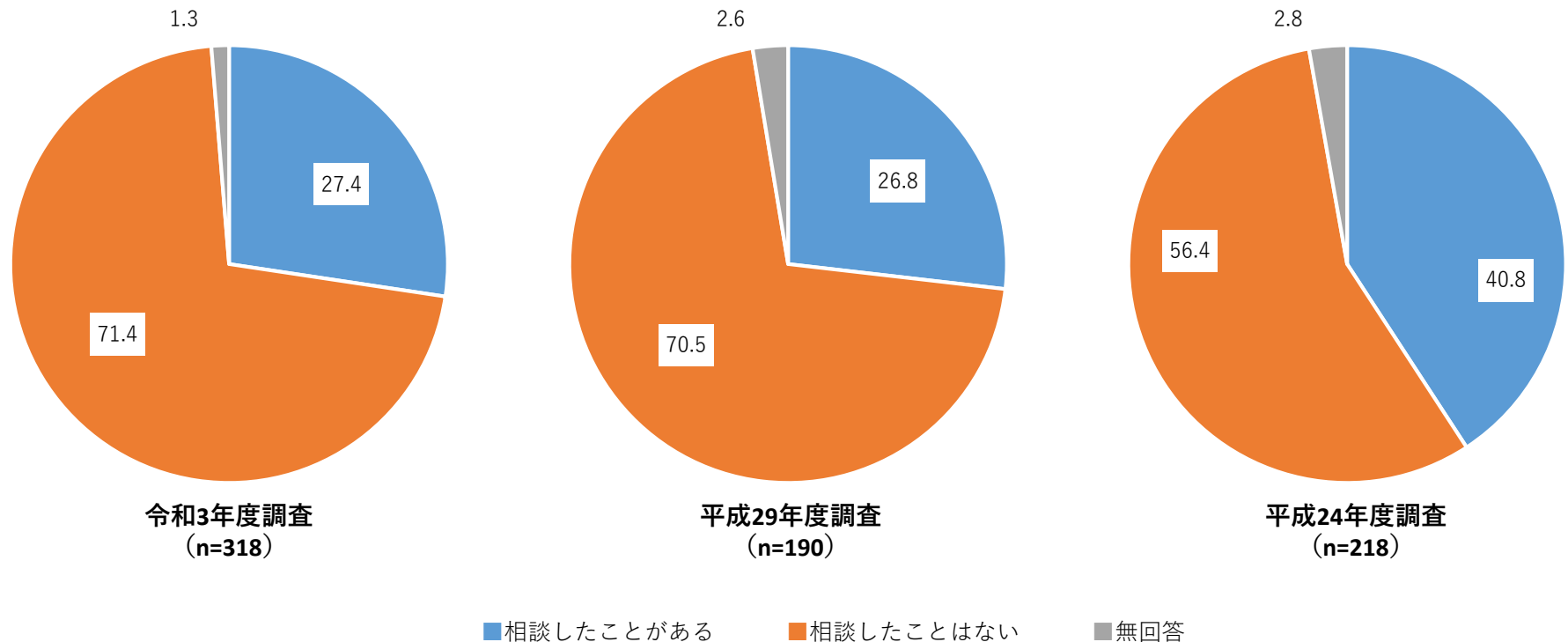
Q 深刻に自殺したいと考えた理由や原因は、どのようなことでしたか。（複数回答可）



自殺を考えたときの相談相手①

- 深刻に自殺したいと考えたとき、誰かに相談したか尋ねたところ、「相談したことはない」が71.4%と「相談したことがある」を大きく上回る結果となった。
- 過去の調査(平成29年及び平成24年度調査)と比較すると、平成29年度調査とは大きな変化は見られないが、平成24年度調査と比較すると、「相談したことがある」が大きく減少している。

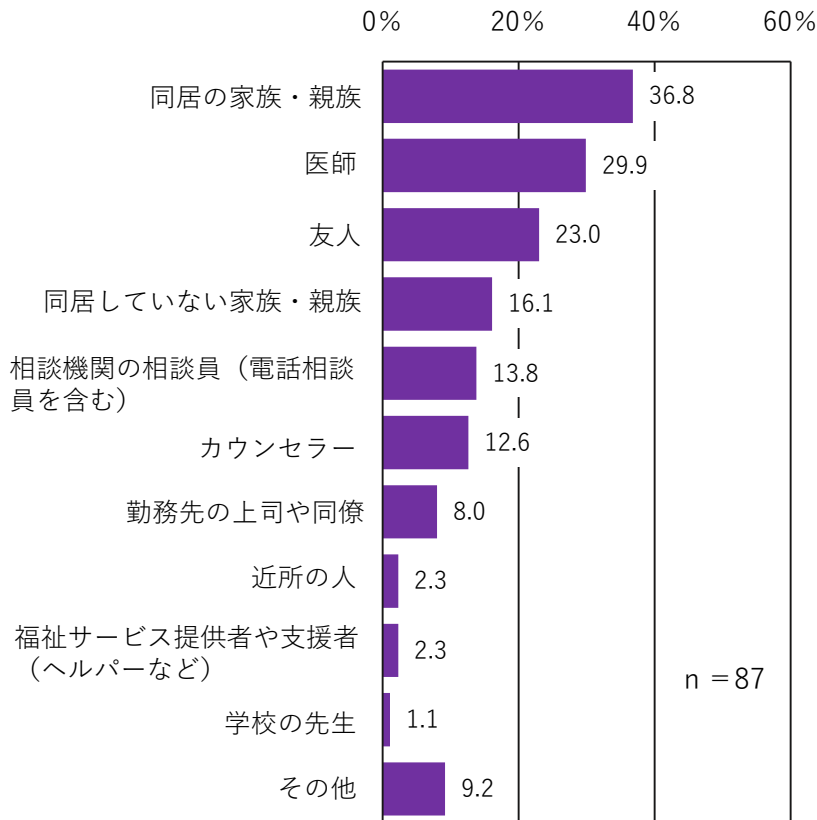
Q 深刻に自殺したいと考えたとき、どなたかに相談しましたか。



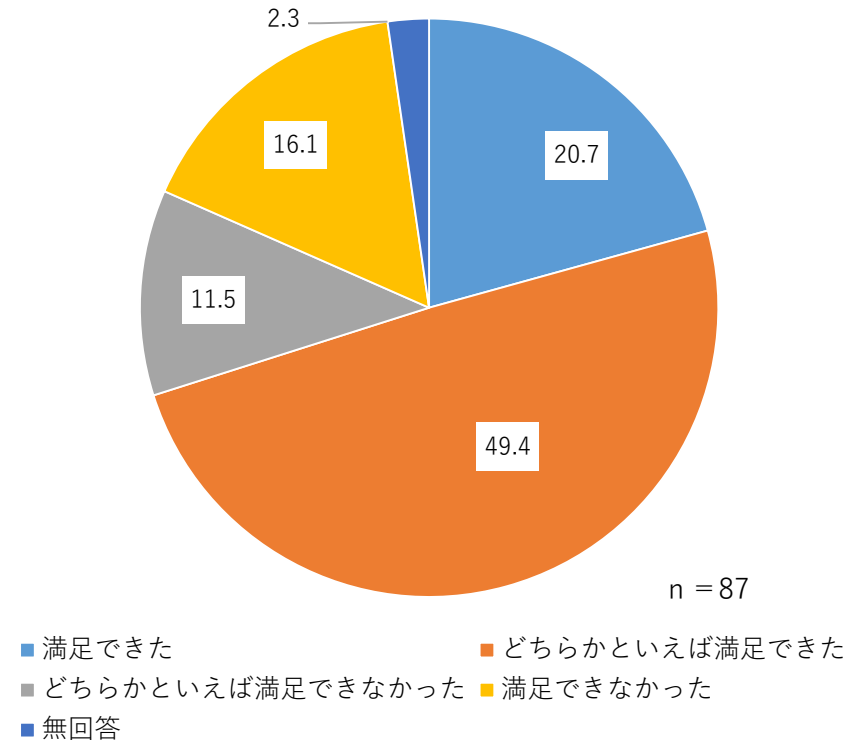
自殺を考えたときの相談相手②

- 自殺を考えたときに相談したことがある人に対して、その時の相談相手を尋ねたところ、「同居の家族・親族」が36.8% 最も高く、次いで「医師」が29.9%、「友人」23.0%と続く。
- また、相談した結果、どのように感じたか尋ねたところ、70.1%（「満足できた」、「どちらかといえば満足できた」の合計）の人が「満足した」と回答した。

Q 相談した相手の方は、どなたでしょう。（複数回答可）



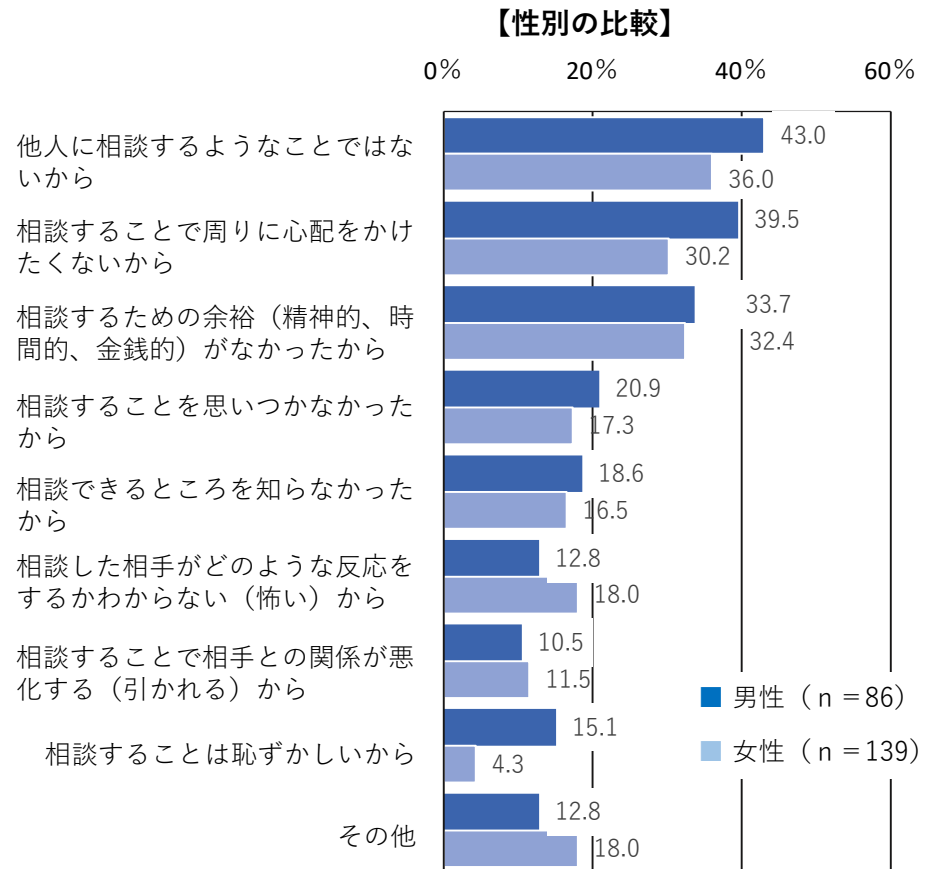
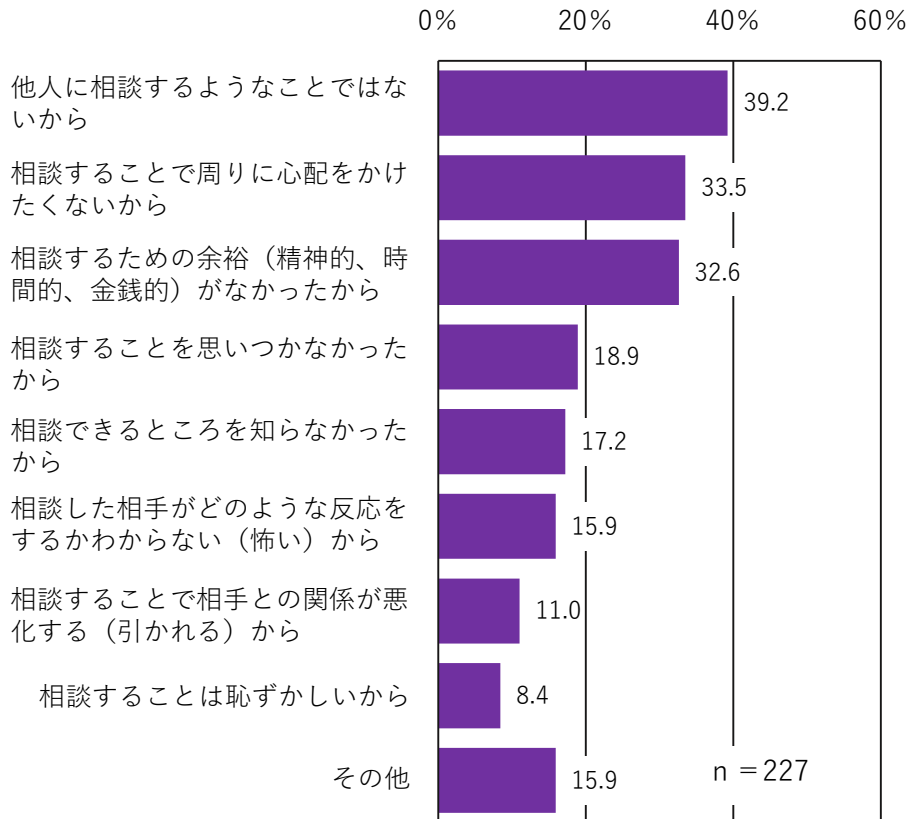
Q 相談した結果、どのようにお感じになりましたか。



自殺を考えたときの相談相手③

- 自殺を考えたときに相談しなかった理由を尋ねると、「他人に相談するようなことではないから」が39.2%と最も高く、次いで「相談することで周りに心配をかけたくないから」が33.5%、「相談するための余裕がなかったから」が32.6%と続く。
- 相談しなかった理由を性別でみると、男性女性とも大きな変化はみられない。

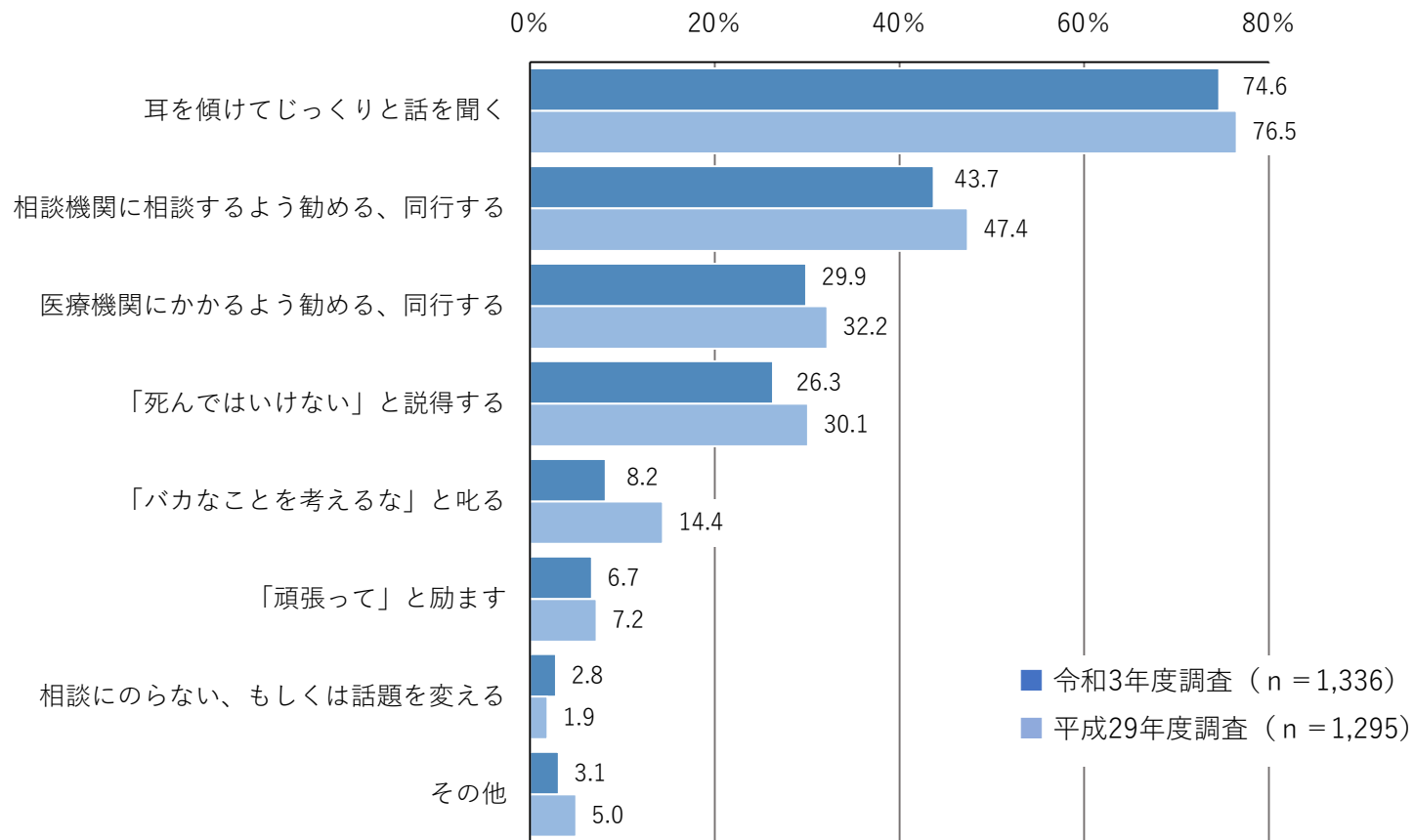
Q 相談しない理由はどのようなことですか。（複数回答可）



身近な人から「死にたい」と打ち明けられた時の対応

○身近な人から「死にたい」と打ち明けられた時の対応について尋ねたところ、「耳を傾けてじっくりと話を聞く」が74.6%と最も高く、次いで「相談機関に相談するよう勧める、同行する」が43.7%、「医療機関にかかるよう勧める、同行する」が29.9%と続く。

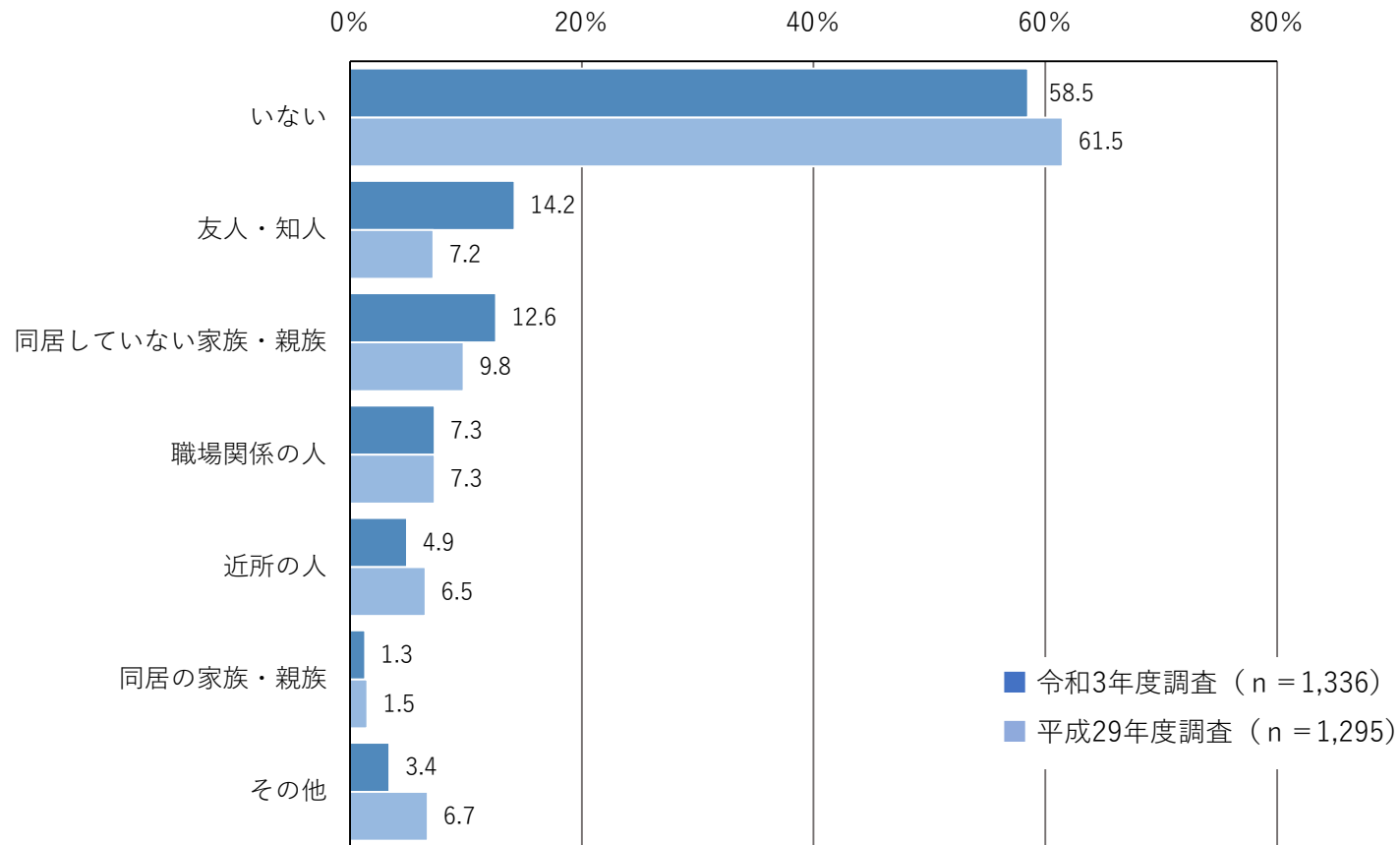
Q もし、身近な人から「死にたい」と打ち明けられたら、どのように対応しますか。（複数回答可）



周りで自殺で亡くなられた方の有無

○周りで自殺で亡くなられた方の有無について尋ねたところ、「いない」が58.5%と最も高く、次いで「友人・知人」が14.2%、「同居していない家族・親族」が12.6%と続く。

Q あなたの周りで自殺で亡くなられた方はいますか。



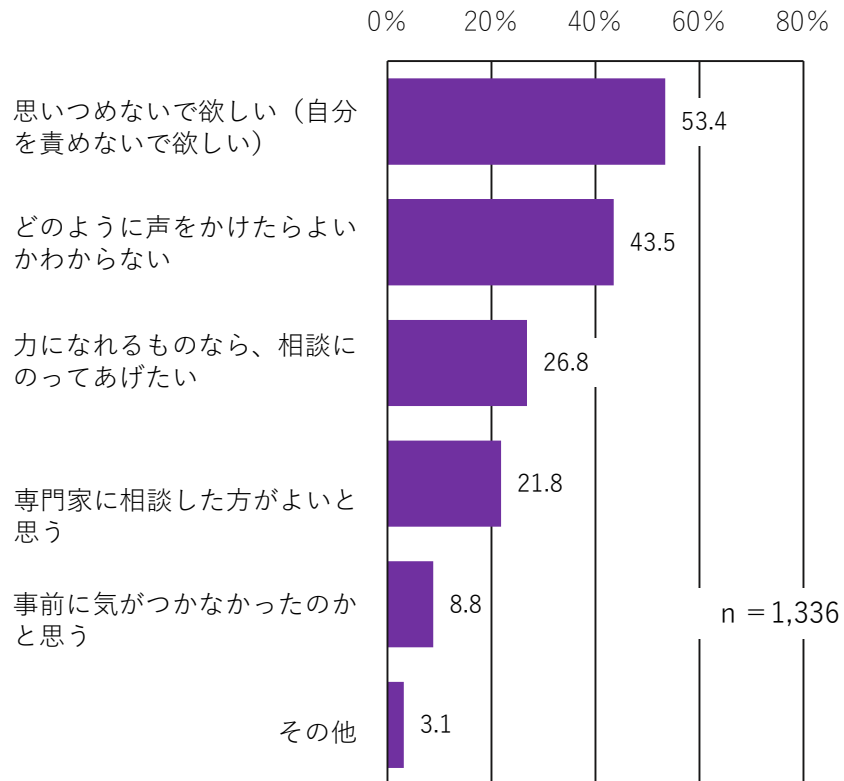
4 自殺に関する考えについて

遺族の方についてどう思うか

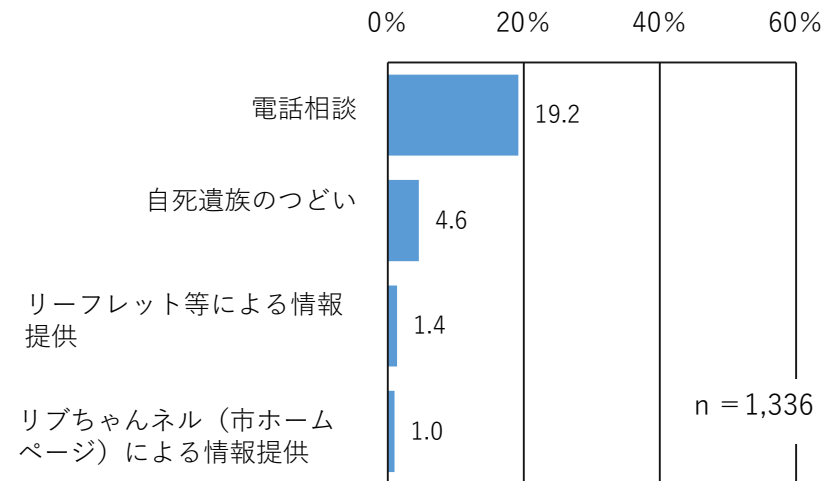
○身近な人を自殺で亡くした遺族の方についてどのように考えるか尋ねたところ、「思いつめないで欲しい」が53.4%と最も高く、次いで「どのように声をかけてよいかわからない」が43.5%、「力になれるものなら、相談にのってあげたい」が26.8%と続く。

○また、市内で行われている自死遺族への支援の認知度について尋ねたところ、「電話相談」が19.2%で最も高い。

Q 身近な人を自殺で亡くした遺族の方について、どのように考えますか。（複数回答可）



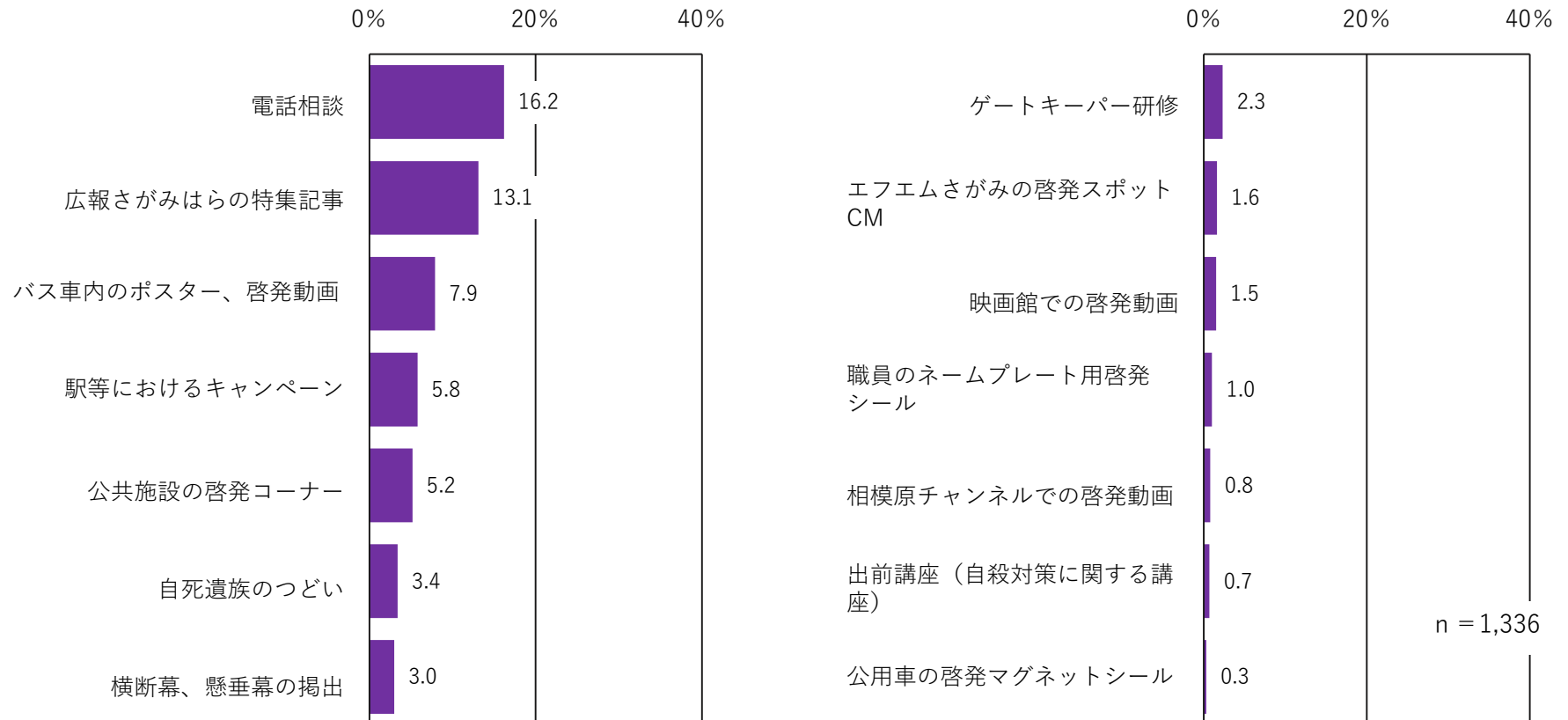
Q 市内の自死遺族への支援のなかでご存知なものがありますか。（複数回答可）



市の自殺対策事業の認知度

○市が実施している自殺対策事業の認知度は、「電話相談」16.2%が最も高く、次いで「広報さがみはらの特集記事」が13.1%、「バス車内のポスター、啓発活動」が7.9%と続く。

Q 自相模原市が行っている自殺対策事業のなかで、ご存じのものがありますか。（複数回答可）

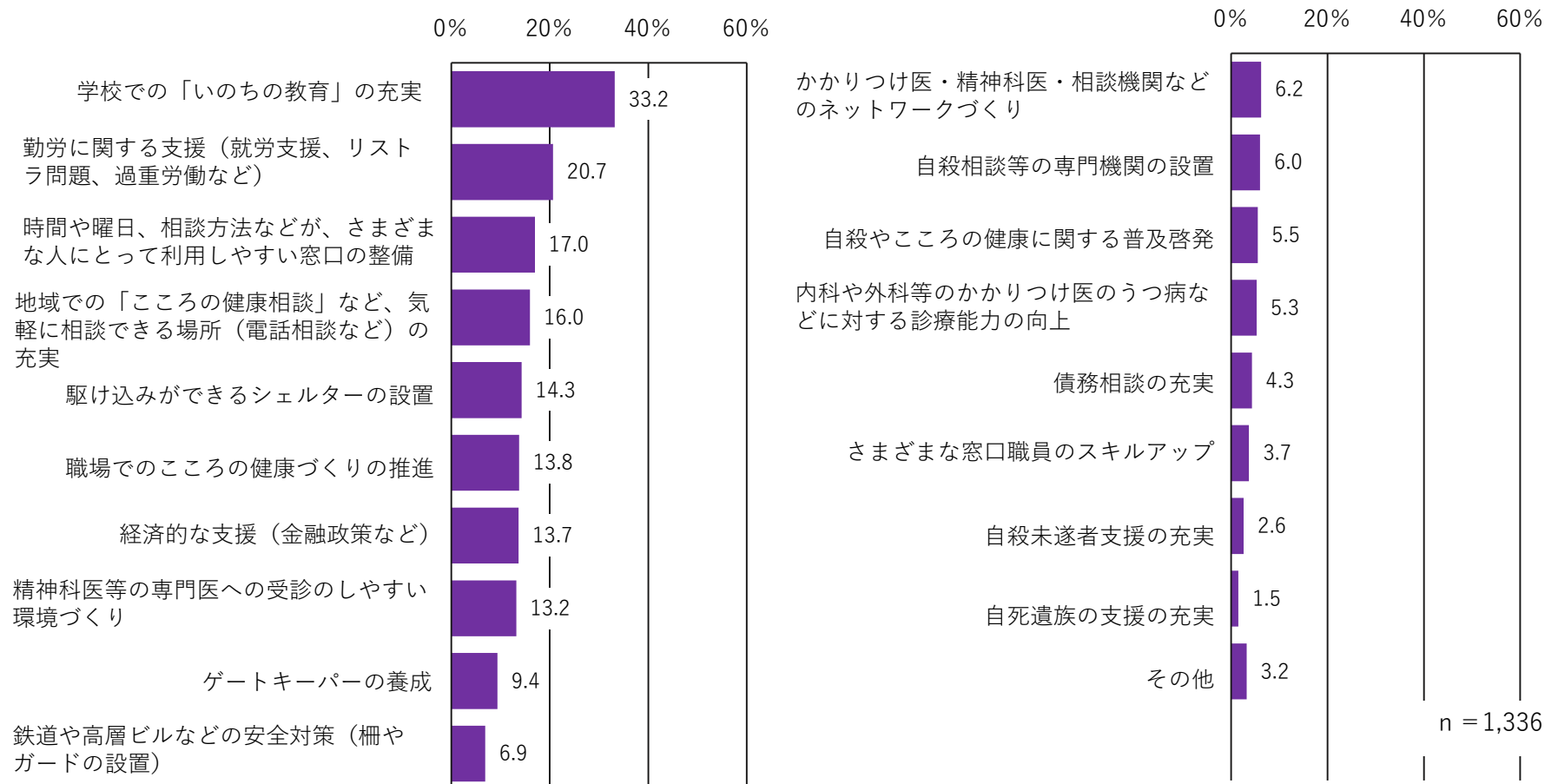


4 自殺に関する考えについて

自殺減少のために重要だと思うこと①

○自殺減少のために重要だと思うことを尋ねたところ、「学校での「いのちの教育」の充実」が33.2%と最も高く、次いで「勤労に関する支援（就労支援、リストラ問題、過重労働など）」が20.7%、「時間や曜日、相談方法などが、さまざまな人にとって利用しやすい窓口の整備」が17.0%と続く。

Q 自殺を減少させるために重要と思われることは何だと思えますか。（特に大事だと思うものを3つまで選択）



自殺減少のために重要だと思うこと②

○自殺減少のために重要だと思うことについて、年代別にみると、他に比べ、20代・30代では「勤労に関する支援（就労支援、リストラ問題、過重労働など）」また20代で「経済的な支援（金融政策など）」の割合が高い。

Q 自殺を減少させるために重要と思われることは何だと思えますか。（特に大事だと思うものを3つまで選択）

他に比べて20代・30代で多かった回答

